



東日本大震災

踏み出そう!

子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡

～震災から2年を経て～



国立大学法人
宮城教育大学

教育復興支援センター

東日本大震災

踏み出そう!
子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡

～震災から2年を経て～

苦難を越えて



国立大学法人宮城教育大学長

見上 一幸

東日本大震災から2年、復興への歩を進める中、人々の悲しみはより深くなっているようにも思います。亡くなられた方々のご冥福を改めてお祈りするとともに、被災した方々の心の傷が少しでも癒えてほしいと願います。この2年間、教育復興支援センターは被災地の子どもや教員の心のケアを支援し、国や多くの大学の協力を得て、ボランティア学生による子どもたちの学習支援にあたってきました。子どもたちは、近い年齢の学生に寄り添ってもらうことで力を得て、学生は震災を乗り越えようとする子どもたちから教師となる上での力を得たものと思います。

本学の被災直後からの学校支援の基本姿勢は、学校に負担をかけることのないように被災校や地域からの要請を受けて動くことにしています。学校ごとに事情が異なることから、支援する側の一方的な親切の押しつけにならないようにするためです。本センターの支援の特徴は、学生ボランティアによる学習支援で、平成24年度

は、本学からの声がけに呼応して全国の13大学から協力をいただいております。なによりも嬉しいことは、これまで延べ2,000人を超える学生が参加してくれたにもかかわらず、大きな事故もトラブルもなかったことです。協力いただいた大学や関係者に心から感謝します。

さて今後は、さまざまな心の傷が顕在化するかも知れません。子どもたちの学習・生活環境はまだ改善してはいません。被災地への社会的関心が徐々に薄らぐ不安の中で、心のケアや学習支援は中長期の課題です。この大震災の直後、一旦は防災教育が無効であるようにも思われました。しかし時間が経つにつれ、教育が有効であることを学びました。平時の学校における防災教育がどうあればよいか、防災教育の教材開発や教育の内容の研究も大切です。また、被災と復興プロセスの記録もしっかりと残さねばなりません。さらに、いざというとき生きる防災のネットワークを日頃から準備しておかねばなりません。特に

被災地を結ぶグローバルな防災・減災のネットワークが望まれます。そして復興教育では、子どもたちが希望や志を諦めることのないような支援が重要です。

今は、復興支援を堅持しながら、教育の力を信じ、万一の災害に備えて力強く防災・減災教育、復興教育を推進すべきときと考えます。残念ながら、自然災害は世界のどこかで常に起こっています。災害を忘れないように、遠い地での災害も我が事として支援のネットワークを構築し、助け合うことが大切でしょう。私たちは日頃の細いつながりが、災害時には太い絆になることを学びました。この大震災による悲しみ、苦しみを自分だけに留めず、ネットワークを介して広く世界に発信し、備えを怠らない持続可能な社会にしなければなりません。このことにしっかり貢献できる教育復興支援センターにしたいと思います。

目次

踏み出そう！子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から2年を経て～

東日本大震災

苦難を越えて 国立大学法人宮城教育大学長 見上 一幸

I 被災から復旧・復興体制の整備	01
1 ブランチの開所	01
2 ボランティアチーム結成 & ホームページ開設	02
3 ボランティア協力員	03
4 貸し出し備品配置	04
II 支援プログラム	05
1 教育復興支援塾事業	06
2 教員補助事業	12
3 教員研修等事業	16
4 子ども対象・参加イベント事業	18
5 心のケア支援事業	23
6 こころざし・キャリア教育事業	26
III 人材育成	27
1 被災地視察研修	27
2 講習会	28
3 大学祭意見交換会	29
4 全国生涯学習ネットワークフォーラム 2012 宮城分科会	30
5 学生震災復興プロジェクト主催「宮教大生が考える震災復興～私たちができること～」	32
6 ボランティア報告会	33
7 復興カフェ in Miyakyo	34
8 他大学関連	34

IV 刊行物	37
1 『出島 学舎の軌跡』女川第四小学校・女川第二中学校	37
2 「東日本大震災からの復興の軌跡『希望の光』」岩沼市立玉浦小学校・玉浦中学校	37
3 教育復興実践事例集「明日の子どもたちのために」仙台市立小・中学校校長会	38
4 平成 24 年度 教育復興支援センター「紀要」.....	39
5 センター紹介 DVD	41
V 外部資金等の獲得	42
1 平成 24 年度大学改革推進等補助金	42
2 一般社団法人国立大学協会	43
3 被災地の教育復興支援事業「心に笑顔」プロジェクト	44
VI 資料	45
1 平成 24 年度 教育復興支援センター活動（事業）実績一覧	45
2 教育復興支援センターだより	50

発刊にあたって 教育復興支援センター長 中井 滋



踏み出そう！子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から2年を経て～

I

被災から復旧・復興体制の整備

宮城教育大学教育復興支援センターは、中・長期にわたって被災地の教育復興支援を行なっていくため、前年度に行った教育支援事業や人的支援のネットワーク化の経験などをもとにさらなる支援体制の整備が必要であった。

本年度は、支援拠点やボランティア学生の確保体制の整備等、学生ボランティア派遣事業を的確、安全に長期的に実施できる体制の整備に重点を置き行った。

1 ブランチの開所

被災地のニーズの収集や支援の調整を行うべく拠点（ブランチ）の設置に向け調整を行ってきたが、仙台中央事務所・気仙沼事務所・仙南事務所の開所準備が整い、6月28日（木）に開所式を開催した。

式では、本学と各ブランチをテレビ会議システムで中継し、来賓挨拶、各ブランチの紹介、今後の連携の進め方などの意見交換を行い、設置地域教育委員会等教育機関関係者42名が参加した。

各ブランチは、子どもの学習支援のために全国から訪れる学生ボランティアの打ち合わせや事前指導、地元自治体との連絡調整に活用しているほか、仙台中央事務所については宿泊施設として活用した。

★仙台中央事務所
仙台市宮城野区宮城野1丁目・宿泊設備（20名分あり）



5月9日（水）仙台市現職校長会との連携打ち合わせ

★仙南事務所
岩沼市中央1丁目・セミナー室（約20名）



9月26日（水）第1回被災地視察研修後の意見交換会

★気仙沼事務所
気仙沼市八日町1丁目・常駐職員2名



2 ボランティアチーム結成 & ホームページ開設

平成 20 年 6 月 14 日に発生した「岩手・宮城内陸地震」により甚大な被害を受けた栗原市において、同教育委員会との連携により、児童・生徒の学力向上と学習習慣の定着を図ることを目的に実施してきた「学府くりはら塾」をモデルとして、支援の継続生と質の向上及び支援学生の確保を目的として、各地域・学校ごとに学生ボランティアチームを結成することとした。

チームごとにメーリングリストを作成し、情報を共有すると共に迅速な支援ができるよう工夫している。

チーム	構成人数
仙台市立中野小学校チーム	22 人
仙台市立荒浜小学校チーム	8 人
仙台市立六郷中学校チーム	12 人
仙台市立七郷中学校チーム	12 人
名取市立関上中学校チーム	9 人
岩沼地域チーム	10 人
丸森地域チーム	5 人
沖野地域チーム	8 人
南三陸ボランティアSチーム	27 人
男子寮チーム	15 人
TA チーム（学生教育復興プロジェクト）	20 人

また、ボランティアチームの活動を広報し支援の輪を広げる試みとして、教育復興支援センターのホームページに「学生がつくる教育復興支援のひろば」を開設し、準備ができたチームから順次公開することとした。

なお、開設準備にあたっては、必要備品を貸し出すとともに、HP 作成のための講習会も実施している。



3 ボランティア協力員

教師を目指す学生の資質向上とボランティアへの興味・関心を高め、ボランティア活動の学内での自主的な広がりを目指して、専攻・コースの1年次学生から教育復興支援ボランティア協力員を各1名募集し組織化を図った。

初の試みであったため、協力員の多くは、その役割を詳しく理解せずにいたが、センターが主導した「協力員連絡会」や「東日本大震災被災地視察研修」への参加などを通じて仲間同士の連携意識が高まってきた。当初17名でのスタートであったが、協力員の呼びかけから、現在32名までに増員した。

ボランティア協力員連絡会等一覧

	月 日	内 容	参加人数
第1回	7月11日(水)	協力員役割説明会	6名
第2回	7月17日(火)	協力員役割説明会	3名
第3回	11月9日(水)	連絡会議(体制づくり相談会)	8名
第4回	12月5日(水)	被災地視察研修会打ち合わせ	13名
第5回	12月7日(金)	被災地視察研修会打ち合わせ	8名
第6回	1月16日(水)	連絡会議(平成25年度体制づくり相談会)	23名
第7回	1月17日(木)	連絡会議(平成25年度体制づくり相談会)	4名
第8回	1月18日(金)	連絡会議(平成25年度体制づくり相談会)	3名



体制づくり相談会の様子



スタッフユニフォーム・デザイン打ち合わせ

4 貸し出し備品配置

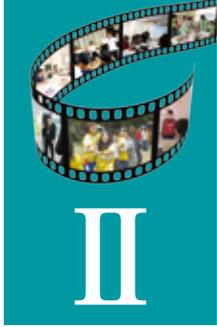
平成23年度に学習支援ボランティア活動補助物品として「iPad」を120台購入した。今年度、ボランティア学生の要望により、キーボード・スキャナー・プロジェクター・スクリーンを追加し、貸し出し用として20セット準備した。

また、ボランティアキット活用にあたり、マニュアルを準備し講習会を開催している。



活用風景（仙台市立七郷中学校）





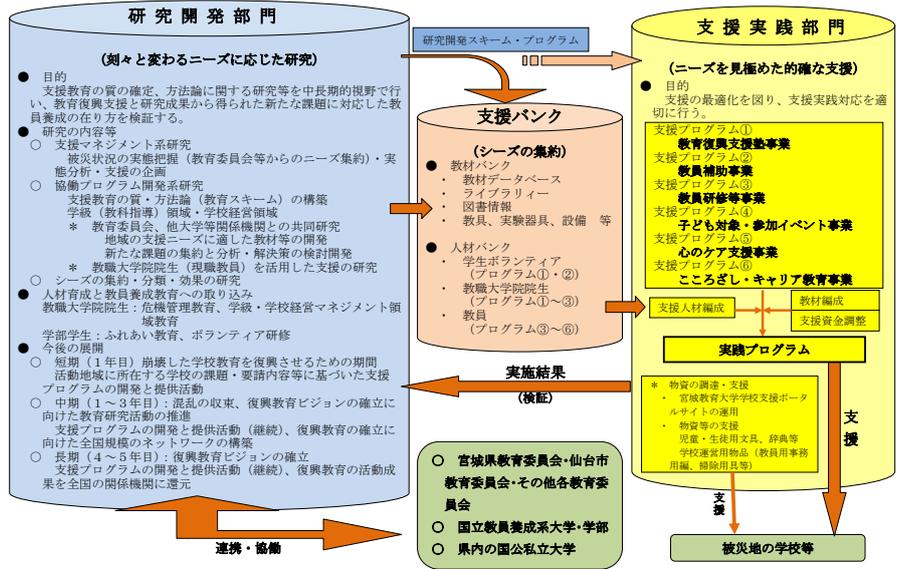
踏み出そう！子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から2年を経て～

支援プログラム

本センターの目的は、宮城県の教育の復興に向け、地域自治体の復興施策内容を念頭に、重点的に取り組む事項等を明確にし、中・長期的に立って児童・生徒の心のケアや確かな学力の定着・向上および現職教員の支援を実施している。

支援プログラムは、①教育復興支援塾事業、②教員補助事業、③教員研修等事業、④子ども対象・参加イベント事業、⑤心のケア支援事業、⑥こころざし・キャリア教育事業の6つである。



支援プログラム①

教育復興支援塾事業

長期休業期間、土日を利用した、補習事業

支援プログラム②

教員補助事業

授業中の T2 (教員補助) の役割
授業間及び放課後の園児、児童、生徒の相手
放課後塾の支援 課外活動支援

支援プログラム③

教員研修等事業

防災教育、教育臨床支援、カリキュラム開発、等
セミナー、講演会、研修会の開催等

支援プログラム④

子ども対象・参加イベント事業

通常授業の中へイベント的要素の提供
(大学教員による実験工作教室、学生によるミニコンサート等)

支援プログラム⑤

心のケア支援事業

教員への支援 (講習会や説明会実施)
児童生徒への支援 (個別相談)

支援プログラム⑥

こころざし・キャリア教育事業

(先輩や著名人による児童・生徒対象講話)

支援実績の検証等を踏まえ、ニーズに応じた最適な実践プログラムで県内の国公立大学や全国の教員養成系大学・学部と連携・協働しながら支援を実施

1 教育復興支援塾事業

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
7月～ 継続(年間)	登米市・南三陸町・気仙沼市 内の仮設住宅	仮設住宅での学習支援※NPO法人HSF「人間の安全 保障」フォーラムの実施事業への協力	31	
7/23・26	岩沼市立岩沼南小学校	自学自習支援	1	2
7/23・26	大和町立鶴巣小学校	自学自習支援	1	2
7/23 7/25～27	塩竈市立 浦戸中学校・浦戸第二小学校	自学自習支援	7	15
7/23～27	石巻市立中里小学校	自学自習支援	1	5
7/23～8/7	仙台市立七郷中学校	自学自習支援(5教科・3学年対象)	12	44
7/24～8/3	塩竈市内6小学校	自学自習支援	9	27
7/25～27	柴田町立西住小学校	自学自習支援	1	3
7/26～27	南三陸町立 志津川小学校・戸倉小学校	自学自習支援	3	6
7/30～8/6	仙台市立六郷中学校	自学自習支援(5教科・3学年対象)	12	25
7/30～8/8	亘理町立 逢隈中学校・荒浜中学校	自学自習支援(国・数・英)	8	21
8/1～2 8/6	女川町立女川第二小学校	自学自習支援	10	20
8/1～3	南三陸町立入谷小学校	自学自習支援・プール監視	3	9
8/1～7	大和町立大和中学校	自学自習支援(数・英)	6	18
8/1～7	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数・英)	4	13
8/6～10	大崎市立古川第一小学校・ 古川東中学校・古川南中学校	自学自習支援(小5・6年生及び中1～3年生対象)	17	85
8/6～9	石巻専修大学	石巻好文館高校の生徒を対象とした自学自習支援	5	10
8/6～10	気仙沼市内8中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生対象)	18	84
8/6～10	登米市南方公民館	南方中学校の生徒を対象とした自学自習支援(5教科)	12	56
8/6～10	丸森町立丸森中学校	自学自習支援(5教科)	9	43
8/6～10 8/20～24	色麻町立色麻中学校	自学自習支援(国・数・英)	4	20
8/8～10	角田市内3中学校	自学自習支援(小3～中3年生対象)	36	106
8/9 8/22～24	美里町北浦地区公民館 他	自学自習支援	2	5
8/16～20	栗原市立築館中学校	「学府くりはら塾」での講師	20	73
8/20～24	大郷町立 大郷小学校・大郷中学校	サマースクールでの講師と自学自習支援	18	58
8/20～24	名取市立関上中学校	自学自習支援	16	61
8/21～22	柴田町立船迫小学校	自学自習支援	1	2
8/21～23	栗原市金成庁舎	小学生版「学府くりはら塾」での講師	7	43
8/21～23	宮城県黒川高校	高大連携学力向上プロジェクトでの学習指導講師(国・ 数・英)	4	4
8/22～24	岩沼市中央公民館	自学自習支援(仮設住宅に入居している児童生徒対象)	12	22
12/24～26	栗原市金成庁舎	「冬の学府くりはら塾」での講師	9	17
12/25～26	塩竈市内6小学校	自学自習支援	4	7
12/25～27	気仙沼市内8中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生対象)	18	53
12/25～27	大郷町立大郷小学校	ウィンタースクールでの講師	10	25
12/25～27	大和町立大和中学校	自学自習支援(数・英)	5	13
12/25～27	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数・英)	6	10
12/25～28	大崎市立 古川東中学校・三本木中学校	自学自習支援	6	16
12/25～28	登米市南方公民館	南方中学校の生徒を対象とした自学自習支援(5教科)	6	18
12/27～28	栗原市金成庁舎	小学生版「冬の学府くりはら塾」での講師	11	20
1/4～5	柴田町榎木生涯学習センター	柴田町内の中学3年生を対象とした自学自習支援	4	8
3/26～29	気仙沼市内8中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生対象)	13	52
3/26～29	宮城県黒川高校	高大連携学力向上プロジェクトでの学習指導講師(国・ 数・英)	3	4

① 平成24年度もっと学びたい子どものための学府くりはら塾について

- ①実施期間 中学生の部 8月16日（木）から20日（月）までの5日間
小学生の部 8月21日（火）から23日（木）までの3日間
- ②実施会場 築館中学校及び栗原市役所金成庁舎
- ③本学の参加学生 27名
国語・数学・英語の教科毎に常時3～4名の学生が担当。
- ④参加対象生徒 栗原市内の小学校3年生から6年生の児童及び中学校1年生から3年生の生徒の希望者
- ⑤生徒参加状況

小学校

学 年	3 年 生	4 年 生	5 年 生	6 年 生	合 計
人 数	24 名	26 名	14 名	13 名	77 名

中学校

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	合 計
人 数	49 名	41 名	70 名	160 名

- ⑥授業内容 中学校は、学生たちが作成したプリント問題等を活用し、それを解答していく中で生徒の苦手意識や課題克服を目指すという内容。
小学校は、夏休みの課題として出されているプリント問題等の解説や、児童の質問に答える形式の学習支援内容。
一日の最後には、児童・生徒たちから家庭学習の仕方や、特に中学3年生は高校受験に向けた対策等の相談を受ける時間を設けた。
- ⑦成果分析 児童・生徒たちには概ね好評で、「授業でわからないところできて良かった」、「学校の復習や予習ができるようになってよかった」などの意見が寄せられた。



中学校の部授業風景



小学校の部学習支援風景

② 平成24年度大郷町サマースクールについて

- ①実施期間 8月20日（月）から24日（金）までの5日間
小学生の部 9時40分～11時35分
中学生の部 13時～15時10分
- ②実施会場 大郷町立大郷小学校及び中学校
- ③本学の参加学生 18名
国語・算数、数学・英語の教科毎に常時1～2名の学生が担当。
- ④参加対象生徒 大郷小学校4年生から6年生の児童及び大郷中学校1年生から3年生の生徒の希望者
- ⑤児童・生徒参加状況（延べ人数） 857名

小学校

学 年	4 年 生	5 年 生	6 年 生	合 計
人 数	167 名	134 名	121 名	421 名

中学校

学 年	1 年 生	2 年 生	3 年 生	合 計
人 数	157 名	210 名	69 名	436 名

- ⑥授業内容 夏休みの課題として出されているプリント問題等の解説や、生徒の質問に答える形式の学習支援内容。
一日の最後には、生徒たちから家庭学習の仕方や、特に3年生は高校受験に向けた対策等の相談を受ける時間を設けた。
- ⑦成果分析 ボランティア学生は、日が経つごとに子どもたちと徐々に慣れ親しんで、授業終了後会話をする姿が見られた。また、学生自身も積極的で、一生懸命児童・生徒の中に入って行こうとする姿が見られた。



小学生の部学習支援風景

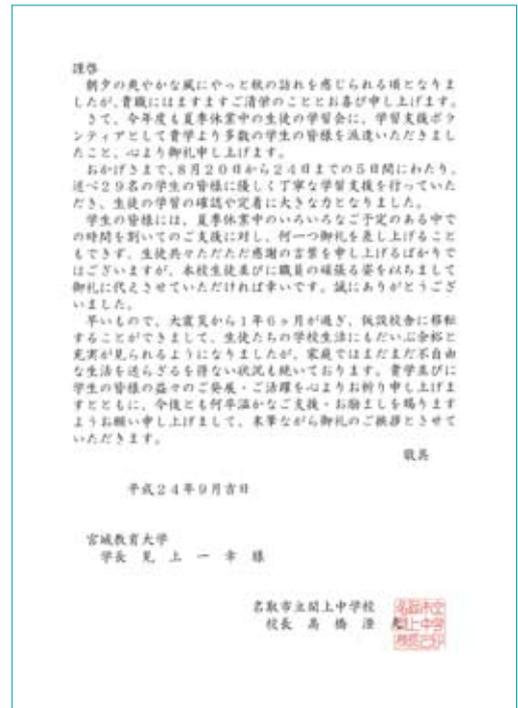


中学校の部授業風景

③ 平成24年度 教育復興支援ボランティア協力大学

	大学名	支援先	実人数	延人数
1	北海道教育大学	丸森中学校	1	5
		南方中学校	1	4
		志津川中学校	1	5
2	東京学芸大学	志津川中学校	12	48
3	上越教育大学	角田市市内小中学校	13	39
4	愛知教育大学	七郷中学校、志津川小学校	3	15
		大崎市内3中学校	17	85
		志津川中学校	24	120
5	大阪教育大学	角田市市内小中学校	20	60
6	京都教育大学	南方中学校	10	50
7	奈良教育大学	丸森中学校	6	30
		丸森町内小中学校	8	40
		松島第一小学校	10	100
8	福岡教育大学	丸森中学校	1	5
9	群馬大学教育学部	女川第二小学校	5	10
10	鹿児島大学教育学部	岩沼市サマースクール	5	5
11	東北大学	中野小学校	4	継続活動
		塩竈市立第一小学校	1	1
		入谷小学校	1	3
		石巻好文館高校	2	5
12	東北学院大学	中野小学校	2	継続活動
		色麻中学校	4	20
		美里町内小学校	1	3
		七郷中学校	3	20
		中里小学校	1	5
		宮床中学校	1	5
		気仙沼市内小中学校	7	24
		南方中学校	1	2
		大崎市内2中学校	4	11
		柴田町内中学校	3	6
		志津川中学校（春休み）	2	10
13	早稲田大学	気仙沼市内小中学校	33	136
		閑上中学校	7	35

④ 関係機関からの礼状・学生の感想等



① 面瀬中学校

短い間だったけれど、この期間が無駄にはならなかったと感じる。短い間でできること、先生とは違う、大学生という立場で接するということがとてもよく感じた。この期間でできた関係を無駄にしないことが大切。

② 気仙沼中学校

最終日ということもあり、小学生は最初からそわそわしがちだったように思うが、勉強時間の配分(45、30、30分)でなんとか乗り切れたと思う。相談員の方の計らいで、何人かの小学生に手紙を書いてもらった。けがもなく終了できて良かった。

全体の活動を通して考えたこととして、「心の交流」と「学習支援」を両立させるには、なるべく同じ人を同じ学校に配置した方が良いのではないかと思った。マンネリ化を防ぐなら、ボランティアの半分を5日間同じ学校にし、半分を3日目から違う人に変えると良いと思った。

③ 関上中学校

理解するまで時間をかけて教えること、宿題を終わらせることのどちらを優先すればいいのか、皆が難しく感じていたようです。1、2年生では宿題の提出期限が迫っているため、熱心に勉強に取り組む生徒が増えたように思いました。部活動を見学した学生は、違う一面を見れて良かったと言っています。生徒たちと勉強以外にも話をしたり、様々な面を知ることによって、生徒たちとの距離が縮まり、学習へも良い効果が現われてきたと思いました。

④ 南方中学校

1年生は友だち同士で盛り上がってしまうことが多く、なかなか集中できない生徒が半数ほどいた。マンツーマンの指導が有効的だと感じた。2、3年生はほとんどの生徒が宿題を終えていて、丸つけのあとの指導が多かった。3年生は特に受験生という意識があり、主体的に取り組む生徒が多かった。

⑤ 角田市

参加して良かったとすごく思います。いろいろ考えさせられ、自分で行動していくこと、貴重な体験をたくさんしました。少しは強くなれたかなと思います。ボランティア中に話し合ったことは、①時間のけじめのつけ方、②席の配置（固まってよいか全員を前に向けるか等）、③集中力が切れてしまった生徒への対応、④コミュニケーションについて、⑤声のかけ方、です。ちょっとしたことを変えるだけで、良くも悪くもなります。ミーティングでよく話し合い、共通理解を持って進めたことが良かったと思います。

実際に被災地を訪れてみて、津波の破壊力や復興の大変さ等を少しですが実感できました。これからも震災を忘れずに、支援を続けていくことが必要だと思いました。

⑥ 北角田中学校

入室後、ボランティア生全員で自己紹介を行った。私たちも、児童も緊張していたが、引率の先生の温かい助言によって場が和み、お互いが難なく学習活動に参加できた。大学生という身分であっても、質問に対してわかりやすく的確に答えることができず勉強不足を痛感させられた。児童の礼儀が非常に良くて、どの児童も真面目でやさしい印象を受けた。

⑦ 角田中学校

手紙をくれる子もいて、3日間だったけど、とても濃い3日間で、とても感動的だった。嬉しかったです！

⑧ 気仙沼中学校

1日目の反省点としては、一つひとつの声掛けでも言葉の使い方やチョイスに注意する（デリケートな事柄）、できる子よりもできない子どもへのかかわり方（どのような支援をするか）等、教え方というよりも、「かかわり方」を工夫しようということになりました。

勉強を教えるだけでなく、側に寄り添うことで心の支えとなって、共に歩み続けたいと思いました。

2 教員補助事業

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
4月～ 継続(年間)	仙台市立中野小学校	教員補助	26	
4月～ 継続(年間)	仙台市立荒浜小学校	教員補助※仮設住宅での学習支援を含む	7	
11月～ 継続(年間)	仙台市立七郷中学校	教員補助	1	
11月～ 継続(年間)	仙台市立六郷中学校	教員補助	1	
1月～ 継続(年間)	仙南地区 (岩沼・名取・亶理)	教員補助※教材開発等を含む	1	
4月～5月	宮城教育大学	学校支援プログラム(学校教育講座)気仙沼市内14校(193名)分のアンケートデータの集計・入力支援	17	31
5/12～13 5/26～27	宮城県気仙沼向洋高校 (仮設校舎)	図書館の書籍整理	9	10
5月26日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	10	10
6月16日	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	25	25
6月16日	岩沼市陸上競技場	岩沼市中総体(陸上競技)の実施・運営の補助	6	6
6/19・21	仙台市立六郷中学校	放課後の学習会の補助	6	8
8/7～10	南三陸町立 志津川中学校・戸倉中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	15	60
8/20～24	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	15	75
9/4～6	宮城県気仙沼向洋高校 (仮設校舎)	図書館の書籍整理	3	8
9/19～21	大熊町立幼小中学校	大熊町立幼小中学校の児童生徒を対象とした教員補助活動(根本アリソン特任准教授+学生)	17	51
9/24～25	東松島市立小野小学校	図書館の書籍整理	9	14
9/24～28	丸森町立 丸森小学校・丸森中学校 他	教員補助	12	59
10月13日	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	6	6
11/16～17	東松島市立鳴瀬第一中学校	図書館の書籍整理	5	5
2/1～22 (毎週金曜日)	仙台市立館小学校図書室	図書室の蔵書のデータベース化作業	2	6
2/12～15	大熊町立幼稚園・小学校	大熊町立幼稚園・小学校の園児児童を対象とした教員補助活動(根本アリソン特任准教授+学生)	23	69
3/4～15	松島町立松島第一小学校	教員補助	14	69
3/25～29	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	13	65

① 仙台市立中野小学校

中野小学校でのボランティア活動は、平成23年5月16日から継続して行っている。今年度は宮教大だけでなく、東北大や東北学院大の学生を含めた26人の学生で活動を行った。

活動内容としては、以下の4つに分けられる。

- (1) 学習支援：授業中の教員補助、子どもたちの学習サポート
- (2) 休み時間：業間休みの時間や放課後の遊び相手・話し相手
- (3) 杉の子寺子屋：放課後の時間を利用した「学び塾」と「遊び塾」の企画・運営することにより、子どもたちに楽しい時間と居場所を提供し、心と体のケアにつなげる
- (4) 行事の補助：運動会や学習発表会等の学校行事の補助

これからも、学校・児童のニーズに応じて柔軟な活動を継続していきたい。



② 仙台市立荒浜小学校

本学の学生ボランティアは被災当初から学校の復旧に向けた取組や、学習支援、放課後の児童の遊び相手など教員補助を務めてきた。また、運動会やPTAなどの学校行事の支援、その他外部からの支援があった際、学生ボランティアが参加している。

なお、川村校長先生には本センターが主催する被災地視察研修の折、今は廃墟と化した旧校舎を会場に、被災者の様子や教職員、住民の協力などについてご講話をいただいている。

卒業式に参加して

教育心理学コース2年
峯田 清人

3月16日(土)は、とっても大きな意味のある一日になりました。

というのも、大学入学とほぼ同時に行き始めた荒浜小学校のボランティア。荒浜小学校の卒業式に学生ボランティアとして参加しました。

朝の職員打ち合わせから始まり、保護者や来賓の車の駐車場誘導。「卒業生入場のタイミングは峯田くん任せ！」と言われて扉を開けるだけけど重大すぎる役目。式が始まったらビデオ撮影。卒業証書を受け取る六年生の清々しい顔は忘れられない。

荒浜小学校では名前を呼ばれたら返事をし、一人ひとり言葉を述べる。将来の夢や目標など様々。復興元年として荒浜小学校を統率、牽引してきた六年生の言葉には、思いやりや感謝が詰まっていた。

とっても感動しちゃいましたよね。ビデオ撮ってるなんて忘れちゃうくらい。彼らは震災によって失ったものも確かに多いけど、それよりもたくさん得たものも多かったんだなって実感した。

お別れの言葉では六年生だけでなく、在校生も涙していた。ビデオ撮りながら自分も涙腺爆発しそうだったことはみんなには内緒。荒浜小学校は児童数が少ないっていうのもあるけど、学年越えてみんな仲がいい。在校生も六年生との思い出が蘇ってきたんじゃないかな。

校長先生の式辞とPTA会長さんの祝辞にもあったんだけど、「ゆめ」という言葉。自分の夢を信じて何がなんでも叶えてやる！っていう強い意志をもって羽ばたいて欲しいなって大学生ながら思ってしまった。

僕もまだまだ「ゆめ」の途中。もっともっと努力して邁進しなきゃね！



③ 仙台市立七郷中学校、岩沼市立玉浦小学校

本学生が個別に被災校に働きかけて、平日の授業や放課後活動、部活動等に参画し、支援している姿も見られた。実践にあたっては、学生が教育復興支援センターに自ら学習支援への希望を申込み、さらに、該当校に連絡するなど、主体的な取組が見られた。学習支援をしようとした動機には、被災校が学生の母校であったことや長期休業中に学習支援を体験していたこと、そして教育復興支援センター主催の研修やフォーラムに参加してみて自分にできる学習支援をぜひ続けてみたいと思うようになったことなどがきっかけであった。具体的な取組の事例としては、七郷中学校で毎週月曜日の午前中に1学年の学習補助を行い、さらに、土日の部活動の指導も行っている学生、玉浦小学校で、毎週金曜日、2年生の授業を中心に学習補助を行っている学生の例があった。



全校児童に紹介（玉浦小）



みなさん、こんにちは（玉浦小）

④ 石巻支援学校(学校行事補助)

石巻支援学校の校舎は津波による震災被害は免れた。県立学校であり、避難所としての指定はなかったが、在校生、卒業生、地元住民のために避難所を開設した。本学では、震災直後のほぼ1か月、特別支援教育の学生が数名で10チーム、2泊の日程で食事、洗濯、清掃などに加え、児童生徒の学習や遊び支援に携わった。本年度は運動会、学校祭で先生方の支援にあたった。

運動会 5月26日 本学生10名、東北福祉大生2名 学校祭 10月13日 本学生7名



次の競技に向けての打ち合わせ



舞台裏はてんやわんやの大忙し

5 図書整理

気仙沼向洋高校

5月11～13日 本学生4名 5月25～27日 本学生6名 9月4～6日 本学生3名

気仙沼向洋高の校舎は津波により被災し、現在は丘陵地の仮設校舎に学んでいる。全国から7,000冊余りの図書の寄贈があり、本学生が3度訪れ、蔵書整理の支援を行ってきた。



ユネスコからの取材もあった



学校司書より図書の補強の仕方を教わる

東松島市図書館

東松島市には全国各地から10万冊を超える書籍が寄贈された。各小中学校図書室を会場に、配布書籍の選択、カバー等の補修、分類、蔵書目録の作成、古書の除籍などを行った。

9月24～25日 小野小 本学生7名



11月16～17日 鳴瀬二中 本学生3名



御礼状

謹啓 向寒の候ますます御清栄にてお過ごしのことと存じ上げます。

さて、今般は未来を担う子どもたちのために学校図書館の整備にご尽力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

お陰様で、市内小中学校の学校図書館の整備が無事終了いたしました。

また、学校図書館担当教諭から図書館を通じて、子どもたちが読書に対する意欲の向上、本の楽しさを知る機会が多くなったと報告を受けております。これも偏に貴殿のご支援の賜物です。

末筆になりましたが、今後とも当市に対しましてご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、書面にてお礼とさせていただきます。

謹白

平成24年11月29日

国立大学法人 宮城教育大学 御中

東松島市教育委員会

教育長 工藤 昌明

3 教員研修等事業

日程	実施場所	実施内容	派遣実人数	延人数(参加人数)
5月12日	宮城教育大学	東日本大震災—教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム	主催	約100
5月12日	宮城教育大学	アジア太平洋ユネスコスクール「連帯と防災」フォーラム	共催	約100
8/6 8/11～12	東北自治総合研修センター	高度な学級・学校経営力養成のための短期集中講座～震災復興からマネジメントを再考する～	共催	63
11/3～4	宮城教育大学	全国生涯学習ネットワークフォーラム2012	主催	約480
12月13日	仙台市情報・産業プラザセミナールーム	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座	主催	47
2月18日	宮城教育大学	持続発展教育・ESDセミナー 国立教育政策研究所 五島先生による基調報告「防災教育・持続発展教育の進め方」	後援	約50

① 「教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム」を開催

宮城教育大学では、5月12日（土）に、東日本大震災後の教育現場への支援を考える「教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム」を、教育復興支援センターが主催となり開催した。大学のこれまでの教育復興支援の取り組みや研究の成果を発表するとともに、東北と阪神淡路、アジア太平洋地域を結び、防災教育や教育復興支援における連携を考えることを目的とし、当日は、研究者や教員、学生など約100名が事例報告や討論に耳を傾けた。

フォーラムの前半では、宮城教育大学の教育復興支援の取組について、4名の教員から報告・発表が行われた。特別支援教育総合研究センターの野口和人教授は、沿岸部の障害者の被災割合について、地区住民が日頃から障害者らと一緒に避難訓練をしていた地域では被災割合が抑えられていたことを報告した。また、国際理解教育研究センターの市瀬智紀教授は、震災を契機に岩手、宮城、福島で外国人留学生数が大きく減少していることから、日本観の変化を食い止めるPRの必要性について指摘した。

フォーラムの後半では、気仙沼市教育委員会副参事の及川幸彦氏、JEARN 理事長の福井良子氏、アジア防災センター所長の名執潔氏の3名をパネリストとして迎え、今後の防災教育及び教育復興支援の在り方や、被災地の経験をどう発信するか等について、会場の参加者も交えて活発に意見が交わされた。



挨拶する見上学長



野口和人教授の報告に耳を傾ける参加者

② 高度な学級・学校経営力養成のための短期集中講座—震災復興からマネジメントを再考する—

8月6・11・12日の3日間にわたり、本学教職大学院が主催となり、今日の現職教員に求められている学校組織マネジメントやスクールコンプライアンス、危機管理等について講義や演習を通して学ぶ短期集中講座を実施した。

今回は、特に震災復興に焦点を当て、防災マニュアル作成や防災教育について考える講座とした。

50名以上の現職教員が参加し、各校の防災マニュアルを持ち寄り、防災主任の職務や役割を明らかにしながらワークショップ形式で点検・整備を図っている。

また、判例や震災時の緊急対応、キャリア教育（志教育）の事例研究を多く取り入れながら、活発な意見交換が行われ、参加者各自が学校組織マネジメントを再考する研修の場となったと思われる。



4 子ども対象・参加イベント事業

日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)
6月6日	大和町立鶴巣小学校	4年生「総合的な学習の時間」における体験学習での指導支援（齊藤教授+学生）	20	20
6月19日	仙台市立折立小学校 (仮設校舎)	特別授業「エジソンと電灯の発明のお話」（内山准教授）	1	1
8/1～2	志津川自然の家	みやぎ高校生ボランティアリーダー養成研修会の実施補助	6	12
8月3日	女川町総合運動場	仙台市立桜丘中学校、桜丘小学校、川平小学校と連携した女川町民を対象とした合唱・交流演奏等のイベント	5	5
8/11～12	陸前高田市米崎地区コミュニティセンター	体験教室「化石のレプリカをつくろう！」の実施・運営補助 ※国立科学博物館主催事業への協力	1	2
8/16～18	蔵王自然の家	「子どもキャンプ」の実施補助※ユネスコ協会の主催事業への協力	23	69
9月9日	角田市スペースタワーコスモハウス	角田市「はやぶさまつり」でのブース出展（内山准教授+学生）※角田市教委との連携事業への協力	2	2
9月16日	石巻向陽地区コミュニティ・センター	仮設住宅に入居している住民を対象にした佐藤雅子名誉教授・雅座・沖縄県安富祖小中学生による民俗舞踊公演	主催	約120
9月24日	気仙沼市立小泉小学校	ピアノ演奏に親しみ、感謝の気持ちを養う「感謝のピアノコンサート」の実施支援（原田准教授+学生）	16	16
9月26日	利府町立しらかし台中学校	学校支援プログラム（技術教育講座）利府中学校生徒・保護者を対象とした「LEDランタン工作教室」	8	8
10月20日	岩沼市立岩沼南小学校	岩沼市「理科大好きフェスティバル」の出展ブースの運営補助※岩沼市教委との連携事業への協力	5	5
10/20～21	宮城教育大学	ヤングアメリカンズワークショップへの参加 ※創造的復興教育協会事業への協力	協力	26
11月30日	仙台市立七郷中学校体育館	荒浜小、七郷中の児童生徒、保護者を対象としたコンサートの実施 ※中部フィルハーモニー交響楽団事業への協力	共催	約120

① 女川に元気を！ ミニコンサート＆演武(8月3日・女川地域医療センター)



桜丘小学校・川平小学校児童有志リコーダー演奏
 ・バスのなかで合同練習に励んだとのこと。
 ・上手に演奏できました。



空手道演武（ジャパン空手クラブ）



桜丘中学校生徒有志合唱

- ・「ふるさとの四季」「ふるさと」は観客とともに大合唱。
- ・最後にうたった「花は咲く」は感動的でした。



閉会の挨拶

- ・主催者全員並んで、阿部芳吉先生が女川の人々（多くは仮設住宅暮らし）にご挨拶。



フード提供（焼きそばやかき氷）

- ・学生ボランティアも手伝いました。
- ・小中学生のなかには、何度も並ぶ人もいました。



社会福祉施設の方との交流も。



献花

- ・女川町立病院のある高台まで17m超えの津波が押し寄せた。
- ・献花の後、地元の方から津波被害を説明していただいた。

② 民俗舞踊公演—東北と沖縄の民俗舞踊—

9月16日（日）、石巻市向陽地区コミュニティ・センターにおいて「民俗舞踊公演—東北と沖縄の民俗舞踊—」を開催しました。

教育復興支援センターと本学・雅座との共催により実施したこのイベントは、東北と沖縄の民俗舞踊及び独楽回しの公演を通して、震災に遭われた方々を応援し、東日本大震災からの復興を祈願することを目的として行われました。

沖縄県安富祖小・中学生の琉球舞踊（四つ竹踊り、エイサー）、日本独楽回し協会会長の安藤正樹氏の独楽回し、雅座によるさんさ踊りが披露され、仮設住宅に入居される方々や地域の方、約120名が訪れ大盛況の公演となりました。来場者は、独楽回しの公演や東北と沖縄という特色の異なる民俗舞踊に癒され、同時に勇気づけられていた様子でした。



③ 感謝のピアノコンサート

9月24日（月）に、気仙沼市立小泉小学校において、本学音楽教育専攻・音楽コース1年生による「感謝のピアノコンサート」を開催しました。

このコンサートは、佐賀県から小泉小学校にピアノが寄贈されたことを機に、その支援への深い感謝の気持ちと、子どもたちの豊かな心を育むことを願って企画されました。

当日は、本学音楽教育講座准教授の原田博之先生その他、学生16名が演奏者（ボランティア）として参加し、児童78名及び教職員を対象に、ピアノを中心とした楽曲構成のコンサートを行いました。

子どもたちは、本学で音楽教育を学ぶ学生の演奏にふれることで、音楽の良さや楽しさ、美しさを感じとることができ、有意義な時間を過ごすことができた様子でした。また、入学して5ヶ月を過ぎ



たばかりの学生たちにとっても、音楽を通して子どもたちと交流することができた貴重な機会となりました。

④ こころのふっこうコンサート(11月30日・仙台市立七郷中学校)

東日本大震災前に、仙台市立荒浜小学校にてコンサートを開催した「中部フィルハーモニー交響楽団」が、震災後初めて当時の荒浜小学校の児童との再会を願い、仙台市立七郷小・中学校の児童生徒および地域住民にも呼びかけコンサートを開催しました。



活用例（仙台市立七郷中学校にて）

荒浜小学校(東宮城野小学校内)にて、コンサートが始まるまでの学習支援



i-Pad を利用して



中学生たちによる会場設営



荒浜小学校の代表から花束贈呈

5 スペースラボin気仙沼/気仙沼図書館実験工作教室を実施しました

8月23日（木）、気仙沼市教育委員会と宮城教育大学の連携事業の一環として、気仙沼市気仙沼図書館及び気仙沼市立気仙沼小学校にて、「スペースラボin気仙沼/気仙沼図書館実験工作教室」が実施されました。

例年、仙台市天文台との連携事業として実施していた「スペースラボ」の舞台を気仙沼市へ移しての初の試みで、当日は100名を超える参加がありました。

昼の部は「宇宙空間を体験しよう！」をテーマに、理科教育講座の笠井香代子准教授による実験教室が行われました。

「どうして宇宙では宇宙服を着なきゃいけないの？」といった子どもたちの素朴な疑問に、真空状態で起こる現象を風船や吸水性ポリマー等、身近な道具を使って分かりやすく解説していきました。

夜の部は「ベガ号がやってくる！」をテーマとして、理科教育講座の高田淑子教授と仙台市天文台のスタッフによる天文観測会が行われました。

仙台市天文台から移動天文車「ベガ号」に来てもらい、本格的な天体観測を体験することができるプログラムで、天気が心配されましたが、観測時には見事に晴れ、空一面の星の中からお目当ての惑星や星座を見つけた子どもたちの歓声がグラウンドに響きました。



6 荒浜仮設住宅支援

仙台市立荒浜小学校の児童数は、97名から47名（1月10日現在）に減少してしまいましたが、これらの子どもたちに対して次の2箇所での学習支援を行っています。

- ① 七郷市民センター（水曜日 18:00～19:30）
- ② 沖野の民間住宅（木曜日 19:00～20:30）

荒浜仮設住宅「若松会」のメンバーは幼児から高齢者まで123名おります。現在の住まいがこちらに点在していますので、月に1～2回程度沖野市民センター等に集まってイベントを楽しんでいるところです。

この時、本学の学生たちもボランティアで参加して、「心のケア」のお手伝いをしています。
山元町のいちごビニールハウスを訪問し、イチゴとトマトの育て方などの説明を聞き、イチゴ狩りを行いました。白いちごという珍しいものを見たときの皆様の反応は元気強いものでした。
恵方巻きを作りながら、ダンス発表会、ゲーム、仙台フィルハーモニーのトランペット演奏会なども楽しみました。



5 心のケア支援事業

講師	日程	会場	内容
関口 博久 教授	1月10日	コラッセふくしま	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座（福島会場） 対象：市民一般 内容：災害と心の支援
	2月16日	気仙沼市民会館	気仙沼市特別支援教育支援員講習会 対象：気仙沼市特別支援教育支援員 内容：不登校と心の支援
野口 和人 教授	8月20日	気仙沼市立津谷中学校	「子どもの心を支援する教師のための心ケア研修会」 対象：気仙沼市南部の小・中学校教職員 内容：震災後1年を経た子どもへの対応についての講演および参加者による意見交換、ワークショップ。
	10月26日	宮城教育大学附属特別支援学校	全国障害学習ネットワークフォーラム2012 テーマ：ICTを活用した21世紀にふさわしい学びの創造 (ICT分科会公開研究会のコーディネーター)
	12月15日	ゆうキャンパス・ステーション	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座（山形会場） 対象：市民一般
佐藤 静 教授	4月9日	仙台市適応指導センター	「震災後の学校適応支援—心の学校生活支援の観点から」
	7月7日	仙台市情報・産業プラザ	公開研究会 「子どもの成長と適応支援—震災後の心の支援を見据えながら—」
	8月22日	庄建上杉ビル	「たくましく生きる力育成プログラム」授業プラン開発・実践委員会 演題：たくましく生きる力育成プログラムの理念と目指すもの 内容：「たくましく生きる力育成プログラム」コア会議で議論されてきた理念、「たくましく生きる力育成プログラム」が目指す児童生徒の姿、「たくましく生きる力育成プログラム」実施上の留意点などについて講話する。
	10月19日	泉区中央市民センター	学びのサポーター育成講座 テーマ：「子どもの発達と震災後の心の支援」

佐藤 静 教授	10月29日	泉区中央市民センター	学びのサポーター育成講座 テーマ：「(子どもの) 発達と震災後の心のケア」 内容：小学生から思春期となる中学生まで、その発達に沿った心理や、東日本大震災後の心のケアについて、今最も知りたい子どもの心についてレクチャーする。
	12月7日	順天堂大学	第10回学術大会・総会 課題：シンポジウム「健康な学校づくり～東日本大震災における子どもの心のケア～」 内容：東日本大震災における子どもたちの心のケアに関する活動に携わっており、臨床心理士の立場から仙台市の取り組みを含めて子どもの心のケアへの対応について提言する。(シンポジスト)
	12月13日	仙台市情報・産業プラザ	南東北3大学連携「災害復興学」市民講座(宮城会場) 対象：市民一般
	12月15日	宮城県石巻合同庁舎	被災地で支援する人のための「聴く力を高めるカウンセリング講座」 テーマ：カウンセリングを活かした人間関係 対象：被災地においてなんらかの対人援助の活動に関わっている方
久保 順也 准教授	10月11日	宮城県石巻合同庁舎	「登校支援ネットワーク事業」不登校理解研修会 対象：東部教育事務所管小中学校教員、適応指導教室指導員及び相談員 内容：「不登校児童生徒の理解について」講義をする。

1 平成24年度公開研究会「子どもの成長と適応支援—震災後の心の支援を見据えながら—」を実施しました

宮城教育大学・仙台市教育委員会・仙台市不登校支援ネットワークの主催により、7月7日(土)、仙台市内の仙台情報・産業プラザにおいて、「子どもの成長と適応支援—震災後の心の支援を見据えながら—」と題し、公開研究会を開催しました。この公開研究会は毎年開催しており、今回が15回目となります。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、私たちや児童生徒の心に大きな傷跡を残しました。そうした環境の中で一人ひとりの子どもたちの健やかな成長を支援するために、どのような取組をしていけばよいでしょうか。今回の公開研究会では、震災後の教育支援に取り組んでいる医師、教師、スクールカウンセラーらの専門家を講師に迎えて、講話とパネルディスカッションによって今後の長期にわたる心の支援や対応に関する検討を行いました。その中で震災後の心の支援(心のケア)の取組や、児童生徒を支援するための観点や方法等が紹介されました。教育関係者や学生、市民等の143名の参加があり、この課題に関する理解を深めることができました。



② 南東北3大学連携「災害復興学」市民講座(宮城会場)

山形大学、福島大学、宮城教育大学は南東北大学連携研究会を平成23年度に設立し、災害復興学という新しい分野の確立を目指した災害復興学推進事業を実施している。

教育復興支援センターでは、災害復興学を広く市民のみなさんに開講するために、12月13日(木)午後6時から仙台市情報・産業プラザ(AER)において南東北3大学連携市民講座(宮城会場)を開催した。

当日は、南東北大学連携研究会の各大学から講師を招へいし、各講師の専門領域の観点における災害からの復興に関わる講義が行われた。年末のあわただしい時期、平日の開催にもかかわらず、47名の参加があり、講師が30分の講義を行いそれに対して10分ほどの質疑応答時間を設ける形で進められた。各講義終了後には講師に対して参加者から様々な質問が寄せられ、終了予定時間をオーバーしての閉講となり、復興に対する特別な思い、関心の高さが伺えた。

○山形大学 人文学部 教授 下平 裕之 氏

テーマ 「人間の復興」

概要 東日本大震災からの復興に当たり、「人間の復興」という概念が重視されている。本講演では、関東大震災の際に「人間の復興」という言葉を初めて用いた経済学者福田徳三の主張に立ち返り、「人間の復興」とは生存権や営生権(働く権利)の保証を目指す考えであることを示し、被災地での営生権を市民自身の力で再興するための新たな取組である「ソーシャルビジネス」とその可能性について紹介する。

○宮城教育大学 教育学研究科 教授 佐藤 静 氏

テーマ 「震災後の心の支援—心のセーフティネットづくりに向けて—」

概要 東日本大震災から2年目の年末を迎えようとしている現在、これからの長期的な心の支援が課題となっている。震災は私たちの生活に大きな変化をもたらし、長期にわたって二次的・三次的な心理的問題が生じる可能性がある。震災の影響がどうかわかりにくい場合や、震災前から潜んでいた問題があらわれる場合もあると予想される。そうした様々な困難に総合的・予防的観点から対処するためには、家庭や学校、地域や職場等で、相互に支え合うための身近な心の支援体制(心のセーフティネット)をつくる必要がある。今回はそうした課題をとりあげて、臨床心理学の立場から具体的な提言を行いたい。



○福島大学 人間発達文化学類 教授 初澤 敏生 氏

テーマ 「地域の復興と地域経済の再生」

概要 被災地域の復興にあたり、生活を維持するための経済の再生は不可欠である。しかし、原発事故にともなう避難地域の設置と避難の長期化は地域の経済的基盤を弱体化させ、復興の大きな障害となっている。本講演では、福島県浜通り地域を事例として、地域経済が直面している様々な課題について考えたい。

6 こころざし・キャリア教育事業

① 「学校・地域連携研究シンポジウム第2回地域協働による防災教育をめざして」を開催

宮城教育大学教職大学院及び教育復興支援センターでは、2月11日に仙台ガーデンパレスを会場として「学校・地域連携研究シンポジウム」を開催した。

このシンポジウムは、昨年に続いて2回目で「地域協働による防災教育をめざして」と題し、新たに防災主任が宮城県で設置されるなど、防災教育の充実という社会的課題に対する取組が始まっている中、地域を鍵概念とする防災教育の展開方法について探究することを目的としたもの。宮城県内の小・中学校教員を含む学校関係者や市民など130名が参加した。

はじめに中井滋教育復興支援センター長から復興支援に対する取組について報告があり、続いて東北大学大学院経済学研究科教授 増田聡氏による「地域に根ざした防災計画の策定と課題」と題した講演が行われた。その後、教職大学院の現職院生による事例研究発表、宮城県教育研修センターの長期研修員による研究発表が行われ、地域の人々とのつながりを持った防災への取組や、防災教育に関する教材開発について報告された。引き続き、テーマごとに分かれてワークショップが開催され、活発な意見・情報交換を行い、災害発生時の危険性は、地域の特性によって異なることから、地域の人々の知恵を防災教育に活かしていく、一つ一つの積み重ねが重要なことを確認した。



② キャリア教育に関する研修会の開催

2月12日(火)に宮城教育大学及び教育復興支援センターが中心となり、「キャリア教育に関する研修会」を開催した。

国立教育政策研究所総括研究官の藤田晃之氏による「小中学校におけるキャリア教育の現状と大学からの支援の在り方」と題した基調講演があり、その後質疑応答、意見交換を行った。

講演では、新しい学習指導要領におけるキャリア教育の位置付けを踏まえ、キャリア教育推進施策の動向と小中学校におけるキャリア教育の現状と課題そして大学の先生方からの支援の必要性などについて資料を基に詳しく説明していただき、その後、小中学校のキャリア教育の推進と実際の取組について、職場体験のねらいや実施時間の確保についての課題などについての質疑応答が行われた。





III 人材育成

平成23年3月11日の東日本大震災以降、県内の国公私立大学や全国の教員養成系大学・学部と連携・協同して、宮城県の教育の復興のため、県内のさまざまな教育機関へ学習支援ボランティア学生を派遣してきた。

震災から一年を過ぎた今年度は、学習支援ボランティア学生派遣事業を行いながら、東北唯一の教員養成大学として学習支援ボランティアを対象に、下記のような人材育成事業も実施した。

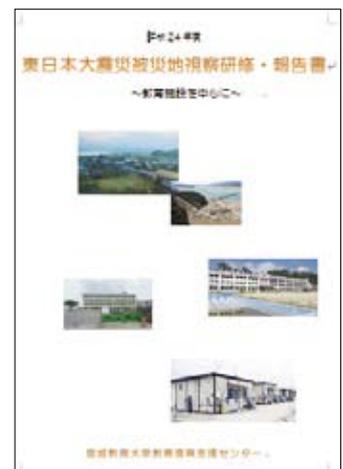
1 被災地視察研修

東日本大震災から1年半を迎え、本学学生と教育復興支援センター職員が被災地を視察し、教育復興への現状と課題などの話し合いの場を設けて本学学生の資質向上をめざすことを目的に、被災地視察研修を5回開催した。

第4回目は、JICA 集団研修受講者 10名も参加した。

	月 日	視 察 地	参加人数
第1回	9月26日(水)	石巻市立大川小学校～仙台市立荒浜小学校～ 玉浦仮設住宅～岩沼事務所	19名
第2回	10月6日(土)	石巻市立大川小学校～仙台市立荒浜小学校～ 玉浦仮設住宅～岩沼事務所	17名
第3回	11月8日(木)	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校～ 仙台市立荒浜小学校	20名
第4回	12月9日(日)	石巻市立大川小学校～南三陸町立戸倉小学校～ 南三陸町防災庁舎	19名
第5回	12月16日(日)	仙台市立荒浜小学校～名取市日和山～ 名取市立関上中学校	13名
第6回	3月8日(金)	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校	8名
第7回	3月15日(金)	女川町地域医療センター～石巻市立門脇小学校	7名

視察後の学生から、「教えることだけが教師ではなく、様々な場面での対応力が求められる」、「被災地の様々な人の話を聞き、思いをくみとり、真実を知っていく義務がある。この時代の教師になれることに使命感を持ち、未来の子どもたちの命、幸せを守れる存在になりたい」、「この震災の本当の様子を知らずに東北で教師になってはいけないと思う」、「その土地、地域に住む人間と現場で働く教員の普段からのコミュニケーションや、今回の“防災”といったテーマを強く結びつけるべきだと感じます」「学校のはたらき、教師のはたらきはとても大きく、学校の安全が地域の方の安全につながる」、「“あなたがそこにいたら何をするか”を考えてほしい」などの感想があり、今後も被災地視察研修を継続して実施し、多くの学生の参加を呼びかけたい。





石巻市立大川小学校・慰霊碑の前にて



仙台市立荒浜小学校・屋上にて、川村孝男校長先生より説明を聞く

2 講習会

ボランティア活動推進にあたり、補助教材として iPad120 台の貸し出しを開始した。iPad を活用して教育支援活動を実施している学生から講習会の提案があり、学生主体の講習会を実施している。

講習会を重ねていくうちに、学生たちから iPad 周辺機器整備の要望があり、スキャナー、キーボードなどのボランティアキット（20 セット）を準備した。

また、教育支援ボランティア学生チームが活動内容を紹介するホームページを開設することを目的に、HP 講習会も開催中です。

年度末には、iPad をどうボランティアに活用するか、事例報告会を兼ねて「まとめの会」を開催し、ボランティア活動をより充実させたいと思っています。

	月 日	内 容	参加人数
第 1 回	1 月 16 日 (水)	iPad 講習会	6 名
第 2 回	1 月 18 日 (金)	HP 講習会	8 名
第 3 回	1 月 23 日 (水)	HP 講習会	6 名
第 4 回	1 月 25 日 (金)	iPad 講習会	6 名
第 5 回	2 月 1 日 (金)	iPad 活用講習会	9 名
第 6 回	2 月 6 日 (水)	iPad 活用講習会	9 名
第 7 回	2 月 15 日 (金)	ボランティアキット講習会	7 名
第 8 回	2 月 19 日 (火)	ボランティアキット講習会	5 名
第 9 回	2 月 20 日 (水)	iPad 活用講習会	2 名



3 大学祭意見交換会

1 ねらい

学習支援ボランティア活動の現状と今後の在り方についての意見交換を通して、今後の被災地における学習支援の充実に資する。

2 日時

10月21日（日）10：30～12：00

3 参加者11名

- ・教育復興支援ボランティア協力員
- ・中野小学校支援チーム
- ・宮教大生協学生委員会
- ・異文化交流部 等

～多くの学生がボランティア活動に参加するようにするために～



それぞれのグループの代表等が集って



真剣な意見交換



KJ法を用いた深め合い

- 【話し合いの主な内容】
- =多くの学生がボランティア活動に参加するようにするために=
 - ☆萩朋会館へのボランティアコーナーの設置
 - ・日程
 - ・対象校
 - ・内容 等(イメージがもてる写真等貼付)
 - ☆1年生への呼びかけ
 - ・学生生活に慣れた6月から8月にかけて
 - ☆萩朋会館でのボランティア報告会に開催
 - ・12月開催
 - ☆各ボランティア団体の相互連絡の充実

等

4 全国生涯学習ネットワークフォーラム 2012 宮城分科会

東日本大震災後、被災地では甚大な被害をこうむった教育現場や地域社会の復興に向け、学校現場、大学、NPO 法人、企業、地域、行政などが連携し、復興教育や地域創造の取組が行われています。

こうした被災地での取組を紹介し、全国の教育関係者や学生らが、被災地の教育復興、さらには生涯学習を通じた新たな社会づくり・地域づくりについて研究討議を行う「全国生涯学習ネットワークフォーラム 2012」の宮城分科会が 11 月 3 日・4 日の二日間にわたり、宮城教育大学を会場として行われました。

11月3日(土)

(1) 開会行事

仙台市立鶴巻小学校、本学公開講座受講生、雅座が地域の中で受け継がれてきた民俗舞踊を披露した。



・主催者あいさつ：

笠 浩史 文部科学副大臣（左）

見上 一幸 宮城教育大学長（右）



(2) パネルディスカッション「地域復興と復興教育」

・コーディネーター：

貝ノ瀬 滋 氏（三鷹市教育委員会教育委員長／全国コミュニティ・スクール連絡協議会会長）

・パネリスト：

阿部 芳吉（本学教育復興支援センター特任教授）

高橋 仁 氏（宮城県教育委員会教育長）

野澤 令照 氏

（仙台市立寺岡小学校長／学校と地域の融合教育研究会副会長）

鈴木 孝三 氏（気仙沼市立大島中学校長）



(3) 基調講演『『震災復興』に学ぶ』

高橋 孝助 氏（一般社団法人創造的復興教育協会代表理事
／前 宮城教育大学学長）



(4) 事例報告

久能 和夫 氏（仙台市立榴岡小学校長）
佐藤 一拡 氏（仙台市立七郷中学校長）
今野 孝一 氏（仙台市教育委員会学びの連携推進室主幹兼
指導主事／前 女川町立女川第四小学校長）
佐野 一郎 氏（NPO 法人じぶん未来クラブ代表）
沢田 康次 氏（東北工業大学長／学都仙台コンソーシアム
復興大学事業代表）



(5) ポスターセッション



11月4日(日)

テーマ「学びを通じた絆づくりと活力あるコミュニティ形成～一人一人にできること～」

(6) 熟議



(7) 熟議成果発表



(8) 閉会行事

本学チアリーディングサークル（smilax）による演技
と中井滋宮城分科会座長（宮城教育大学理事・副学長）
によるまとめの講話



5 学生震災復興プロジェクト主催「宮教大生が考える震災復興～私たちができること～」

大学祭におけるボランティア報告会、意見交換会で、本学生の震災復興に対する意識の薄れや人員不足によるボランティア活動停滞の危惧が挙げられた。しかも、活動の中心メンバーが4年生などの上級生が多いことから、ボランティア活動の重要性や活動の意義などを多くの下級生に伝える必要から学生主催によるフォーラムが開催された。

日時 12月19日(水) 13:00～16:00
場所 宮城教育大学萩朋会館大集会室

【内容】

挨拶：中井 滋 教育復興支援センター長

基調講演：阿部 芳吉 特任教授



各 団 体 か ら の 活 動 報 告



【参加団体】

学内団体：中野小学校学習支援 異文化交流部 荒浜小学校学習支援
学府くりはら塾 しょうがい学生支援室視覚しょうがい部会
ノートテイク

外部団体：Teach for Japan にじいろクレヨン
アスイク 仙台ユネスコ協会



進行：
学生教育復興プロジェクト代表

6 ボランティア報告会

1 第1回 11月3日(全国生涯学習ネットワークフォーラム2012宮城)

標記のフォーラムの一催しとしてボランティア報告会を実施した。はじめに、次の3グループから活動報告があった。

- ①東北学院大学 災害ボランティアステーション—— 支援と要請のマッチング。気仙沼市では遊歩道の整備や漁業支援、観光マップの制作などにあたり、山元町では津波被害の後片づけ、清掃、草むしりなどを行う。
- ②宮城教育大学 中野小学校の学習支援等—— 蒲生干潟に隣接する中野小には環境教育の推進のためにかねてから学生が理科の授業研修で交流していた。津波によって校舎が使えなくなり、隣接する小学校に学ぶ小学生の学習支援、スクールバスが迎えにくるまでの遊び支援等を行った。
- ③宮城教育大学「学府くりはら塾」—— 平成20年6月14日の宮城岩手内陸地震により、1か月余り休校になった栗原市内小中学校の学力低下を避けるための学習支援活動。本教育復興支援センターの活動の先駆け、指針ともなった。



全国の教育養成系大学から多くの参加者があり、協議の後も話が弾んでいた。

2 第2回 3月16日

ボランティア活動に取り組む本学生約20名がそれぞれの活動内容を説明するとともに、問題点、今後の課題について協議を行った。各グループの活動がほとんど知られていないことに驚かされていた。現在、年度替わりの時期を迎え、後継者へのバトンタッチ、活動参加者の拡充が最大の悩みであることが共通していた。なお、松島第一小学校の学習支援ボランティアに来県していた奈良教育大の代表者にも参加してもらうとともに、新年度にも宮城県の教育復興支援に力になりたいとの意志表明がなされた。



7 復興カフェ in Miyakyo

教育復興支援センターでは、宮城県の教育復興にむけ、児童・生徒の心のケアや確かな学力の定着・向上および現職教員の支援を実施しています。

また、現在5つの研究プロジェクトを作って研究調査活動を行なっています。これまでの支援内容や研究成果を、話題提供という形で情報発信する「復興カフェ in Miyakyo」を開催しています。

第1回 2月18日

「気仙沼市仮設商店街における経営状況と本設の意向」

東北大学理学研究科博士課程院生 庄子元氏

第2回 3月11日

「教育復興支援センターの役割と課題」

教育復興支援センター・特任教授 阿部芳吉



第1回



第2回

8 他大学関連

1 玉川大学

7月26日(木)の仙台市立七郷中学校学習支援活動を、渡辺一雄 元玉川大学教授と熊鑫 家政学院大学大学院2年が視察した。



② オーストラリア・メルボルン大学

オーストラリア政府が東日本大震災の被災地への教育支援として本学との交流のためにメルボルン大学から教職員を含め6名が来訪した。

交流の一環として9月28日に南三陸町の視察訪問があり、教育復興支援センターでその案内を務めた。強い雨の中の視察であったが、あの3.11の降雪を思い起こさせ被災した方々の心情を実感できる機会ともなった。

一行は、津波が3階建て校舎の屋上まで押し寄せた南三陸町戸倉小学校の児童が避難した宇津野高台を実地踏査し、さらに地域の住民とともに150名が寒い一夜を過ごした五十鈴神社へと足を伸ばした。また、「大津波警報が出されました、高台に避難してください」と町民に呼びかけながら尊い命を亡くした、あの『命の呼びかけ』のあった南三陸町防災庁舎を訪れ、参加者全員で哀悼の意を表した。



戸倉小学校避難地 宇津野高台に立って



南三陸町防災庁舎前で

③ 大邱教育大学

本学の協定校、韓国の大邱教育大学の南承仁総長（学長）と孫先生が10月17日に来校した。午前中は、総長先生に「韓国の教育事情」というタイトルで講演をしていただいた。午後は、被災した仙台市立荒浜小学校を視察、当時の様子や現在の状況などをお聞きになり、大変心を痛めていた。



津波で被災した仙台市立荒浜小学校体育館を前に



4 JICA 集団研修会講義、被災地研修

10/29～11/16にJICA 集団研修を実施した。各国の教育関係者が本学で日本の教育制度を学んでいくというプログラムである。

研修期間中に、本センターにおいて「震災と教育復興」と題した講義を実施した。また、東日本大震災被災地視察研修を実施し、女川町地域医療センター、石巻市立門脇小学校、仙台市立荒浜小学校を視察した。



「東日本大震災と学校教育」についての講話



津波で倒壊したビルの前で（女川町）

5 上越教育大学

上越教育大・土谷研と本学・菅井研の合同ゼミナール（特別支援教育）

3月7日～8日 特別支援教育総合研究センター・教育復興支援センター

前年度、上越教育大学で行われた本学菅井教授による「東日本大震災における支援活動と特別支援教育」の講演を契機に、両研究室の合同ゼミナールが実施された。

震災以降の特別支援教育の課題、今後の特別支援教育に関する研究において、どのような視点に立つことが必要であるかなどについて、研究発表、講義、フリーディスカッション等が行われた。

その際、本センターから「センターの役割と活動内容」の講義を行った。





踏み出そう！子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から2年を経て～

刊行物

大震災の被災状況は、地域や各学校により多様な対応が求められ、現在も続いている箇所が少なからずある。

本センターは、昨年に続き、震災後の対応などで、後世に残すべきであると考えた特徴的な学校と教育委員会について、それぞれと連携協力しながら冊子としてまとめ刊行するとともに、今後の支援や教育復興に資することとした。

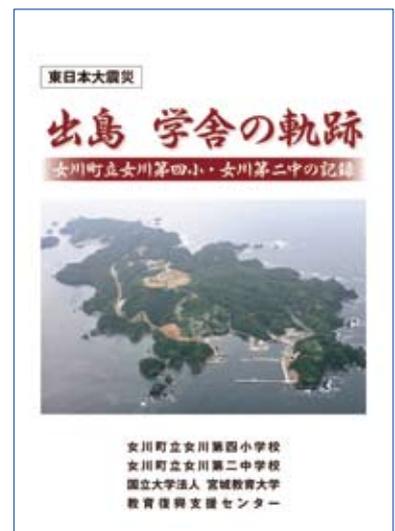
また、仙台市小中学校校長会と連携しながら、教育復興実践事例集「明日の子どもたちのために」を刊行した。

1 『出島 学舎の軌跡』 女川第四小学校・女川第二中学校

太平洋に浮かぶ女川町出島にあった、女川第四小学校と女川第二中学校は平成25年3月22日をもって閉校になった。

二つの学校があった出島は、あの3.11の地震による大津波の発生で9割の家屋が流失するなど甚大な被害がもたらされた。全てライフラインが失われ、全島避難という状況に追い込まれた。現在も、一部の島民だけが島に戻れただけで、多くは町内にある仮設住宅での生活を強いられている。両校も、女川第二小学校や女川第一中学校の校舎を借りて教育活動を行っている。女川第二小学校には、他に女川第一小学校も入っており、それぞれに不自由な環境での教育活動となっている。

女川町教育委員会と連携のもと作成した本報告集は、震災発生から陸上自衛隊のヘリコプターにより救出されるまでの学校を避難所とした島民及び教職員の動きや子どもたちの活動の様子、避難先である石巻での子どもたちや教職員の様子、女川第二小学校と女川第一中学校での教育活動の様子がまとめられている。そこには、救助を求めるための衛星電話の活用、避難生活での子どもたちの健康への配慮、そして校舎を借りた先の学校との交流学习を始め他地域との交流など、教職員の創意と工夫に溢れた教育活動の様子が記されている。



2 「東日本大震災からの復興の軌跡『希望の光』」 岩沼市立玉浦小学校・玉浦中学校

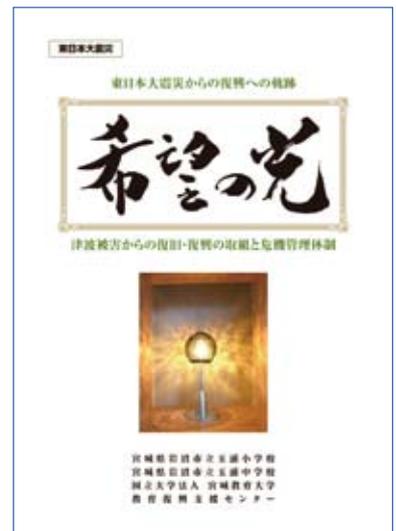
大震災から2年が経過しようとしているなか、この震災を一過性のものとせず、困難を極めながら学んだ熱い思いを形に残すために、岩沼市教育委員会と連携のもと、岩沼市立玉浦小学校、玉浦中学校の復旧復興に向けて取り組んだ姿を震災記録集「東日本大震災からの復興の軌跡『希望の光』」としてまとめた。

玉浦小、玉浦中学校は仙台湾岸からおよそ2kmに位置し、学区は昔から農業が盛んな地域であった

が、そこに地震から約1時間後に津波が襲い、学校周辺が海水に覆われ陸の孤島となり、生徒の尊い命が奪われ困難な状況に陥った。そのような中から、玉浦小、玉浦中学校は、地域・学校・保護者・行政が一丸となって津波

被害からの復旧・復興に取り組み、さらに危機管理体制確立に向けた創意ある教育活動を行っている。工夫され、地域の復興の光となって、一步一步しっかりとあゆんでいる。

本報告集では、まだ多くの児童生徒は仮設住宅での生活を強いられているが、学校再開に向けて子どもたちの心のケアを最優先にした、安心して学べる場としての学校づくりに学校あげて取り組んだ活動や、危機管理体制の確立に向けて、市教委の「岩沼市の10の防災の指針」のもと、学校防災マニュアルや防災個人マニュアルの作成、玉浦防災だよりの発行などをきめ細かく取り組まれた活動がまとめられている。



3 教育復興実践事例集「明日の子どもたちのために」 仙台市立小・中学校校長会

仙台市内においても、沿岸部は津波により甚大な被害がもたらされるとともに、内陸部においても住宅地を中心とした地盤沈下や崩落により多くの家屋等が被災している。それは、学校教育の場にも影響を及ぼし、津波や地震による校舎の直接的な被害ばかりでなく、震災を体験した約80,000人の児童生徒の心に大きな傷を残した。

学校は児童生徒にとって安心と学びの喜びを体感する場であることをもとに、明日へ生きる子どもたちのために多くの教職員が創意ある教育活動を展開してきた。被災により使えなくなった校舎から生まれた教育活動、新たな学習教材の開発や学校行事の創出、他地域や他校との交流、地域とのさらなる連携の充実など、多方面にわたる実践がなされていた。そのような事例を、今後への備えを日頃の教育活動の創造に生かすために仙台市小学校校長会と仙台市中学校校長会とともに収集編集したものである。

本編は、小学校編と中学校編に分かれ、教科と領域というジャンルだけでなくそれらの壁を越えた教育活動など87の事例を編集している。また、教職員によって構成されている仙台市小学校教育研究会の七つの部会からの実践事例が寄せられている。

中学校編では、震災体験等を素材とした学習指導、新たな学校防災教育、震災からの復興をめざした教育活動に分類し14校からの実践事例が寄せられている。



4 平成 24 年度 教育復興支援センター「紀要」

1 国際理解教育研究センター 市瀬 智紀

Creating New Relationship between School and Local Community from the Lesson of East Japan Earthquake 3.11

On March 11, 2011, the Great East Japan Earthquake hit northeastern Japan. One year and eight months have passed and post-quake recovery is being accelerated. During this period, many schools produced and submitted the records of the earthquake and their recovery process. The records contain lots of information useful for school's disaster prevention and provide much information about how schools could play its role for the local community at the time of disaster. Each school had different experiences and behaved differently during and after the earthquake and the tsunami. However, the roles of schools are categorized into three: the ones in the middle of the flooded area, the ones on the verge of the flooded area, and the ones at the hinterland. Summarizing by category the lessons learned immediately after the earthquake and the tsunami, I would like to pick up and present in this thesis information that is universal and useful for local disaster prevention from the lessons learned in the field of school and local community.

2 社会科教育講座 小金澤 孝昭

防災教育・復興教育の視点～仙台広域圏を事例にして～

本報告では、防災教育と復興教育についての試案を、調査結果に基づいて提案した。防災教育にしても復興教育にしても共通することは、地域学習を基礎におくことである。防災教育では、避難路の確認やハザードマップの作成、避難訓練、被災後の対応シュミレーションの訓練は重要な項目であるが、日常的な教科学習や総合的な学習の中で、地域を学ぶ学習も重要である。復興教育は、未来を創る教育学習である。大震災という持続不可能な事態が発生した時にまたそれ以外の持続不可能な課題についても、これからの未来の地域社会をデザインする力を育む教育学習である。未来は過去や現在の延長線上に組み立てられていく。過去を踏まえて現在をしっかりと分析し、思いつきでない未来を創る学習能力を育てていくことが重要である。これらの実践はユネスコスクールで蓄積されてきた持続発展教育のプログラムや知恵が参考になる。

3 技術教育講座 安藤 明伸

プロボノ プラットフォームを通じた仙台市教育委員会との復興支援

本稿では、平成 23 年度および 24 年度にプロボノワーカーとして仙台市教育委員会主催の「児童生徒による故郷（ふるさと）復興プロジェクト」に参加したことについて報告する。このプロジェクトは、仙台市内の全小中学校に在籍する児童生徒のプロジェクトとして企画された。児童生徒からは、様々

な取り組みの企画立案・実行を通して、児童生徒たちから情報通信技術を活用して形に残したいというアイデアが出てきた。しかし、具体的な表現方法や技術力には限界があり、実現が困難視されていた。そこで、情報プロボノプラットフォーム (iSPF) という、プロボノ支援をしている組織へ相談し、プロボノワーカーを募集して頂いた。全国から集まったプロボノワーカーの一員として安藤研究室も参画し、平成 23 年度は、児童生徒の合唱曲に合わせて、市内各校で作成した応援旗を用いて、光・友・絆・笑の 4 文字を形作る映像作品やポスターの作成を、また平成 24 年度は市内各校での取り組みを撮影した写真を使用し、これまで頂いた支援に対する感謝の気持ちを伝えるモザイクアートポスター作成に携わった。

④ 岩永 則子(石巻市立山下小学校)、國分 秀、黒川 修行(保健体育講座)

東日本大震災後の宮城県沿岸地域における児童の身長・体重 について

2011 (平成 23) 年 3 月に発生した東北地方太平洋沖地震によってもたらされた東日本大震災は子どもたちの生活環境に大きな変化をもたらした。このことは子どもたちの発育に影響を及ぼしていると考えられる。本報告では宮城県内の沿岸地域の小学 1 年生から 3 年生の体格について、現在どのような状況にあるのか、明らかにすることを目的とした。平成 23 年度の身長の平均値は全国平均値と比較しても、顕著な違いは認められなかった。しかし、体重の平均値はいずれも大きい値を示した。また、平成 23 年度から平成 24 年度の 1 年間の発育量についてみると、特に身長でその伸びが以前に比べて低いことが観察された。震災の影響による発育抑制の可能性も考えられたが、対象者数が少ないこと、また変化量の低値傾向も統計学的に有意であったものの、軽微な違いであったことから、今後十分な精査およびさらなる観察が必要であると考えられた。

⑤ 教育復興支援センター 阿部 芳吉・伊藤 芳郎・門脇 啓一・吉田 利弘

学習支援ボランティア活動を通じた学生の育成 (教育復興支援センター活動報告)

本教育復興支援センターの取組、主として平成 24 年 4 月～25 年 1 月の取組を概括したもの。

本センターは、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災によって甚大な被害をこうむった宮城県内の学校教育復興——児童生徒の確かな学力の定着・向上、現職教員の各種支援等を期して、同年 6 月 28 日に設置された。

開設以来の具体的な取組は、被災地からのニーズに応えるために刻々と推移してきたが、現在では宮城県内の教育の復興、それも主として学生による学習支援ボランティア活動が中心となっている。実施にあたっては、全国教員養成系大学、県内各大学と連携・協働しながら、学生ボランティアを組織し、派遣している。

こうした学生ボランティア活動の拡充が、被災地、主に宮城県の教育の質的改善、児童生徒の学力向上、心の復興等に貢献するとともに、参加学生の人間的成長を促し、教師に求められる資質・能力の育成に寄与するであろう、という視点からまとめたものである。

6 英語教育講座 根本 アリソン

梨の花プロジェクト Okuma & M.U.E. Friendship Programme

現在、福島県大熊町は、福島第一原子力発電所事故以降、町機能を福島県会津若松市に移している。それを受けて、「梨の花プロジェクト」と題して平成24年9月18日から9月21日の4日間に、宮城教育大学の教員1名と学部学生17名が会津若松市へ赴き、大熊町の幼稚園、小学校、中学校において教育支援等を行った。本稿は、その教育支援についての実践報告と、実際に現場に赴いて活動を行った学生の感想をまとめたものである。

7 理科教育講座 笠井 香代子・高田 淑子・松下 真人

被災地復興支援活動としての理科実験教室の実施

～仙台市天文台との連携事業「スペースラボ in 気仙沼」～

平成21年度より、宮城教育大学と仙台市天文台の連携企画の一つとして、「宇宙」や「天文」をキーワードとした科学実験教室「スペースラボ in 仙台市天文台」を開催実施してきた。東日本大震災以降、科学実験教室や科学コミュニケーション活動への期待や要望が高く、仙台市天文台に足を運ぶのが難しい気仙沼に赴き、科学実験教室および天体観測会「スペースラボ in 気仙沼」を開催実施した。

実験教室「宇宙空間をミニ体験しよう」では、大気のある地球と真空の宇宙空間の違いを理解するため、簡易真空装置による実験や、宇宙服や宇宙ステーションに使用される素材の合成などを行った。天体観測会では、仙台市天文台移動天文車「ベガ号」の20cm屈折望遠鏡を中心として、様々な天体観測を行った。

参加者のアンケート結果などより、満足度や科学への理解度・期待度などの高い活動とすることができた。被災地域での今後の継続的な活動が期待される。

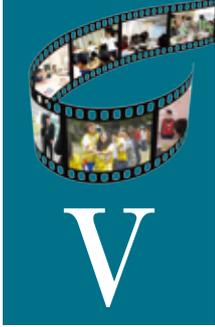
5 センター紹介 DVD

「宮城教育大学教育復興支援センター～教育支援ボランティア～」として教育復興支援センター紹介のDVDを作成した。

内容は、教育復興支援センターの役割、学習支援ボランティア活動例、2012活動記録、被災地視察研修、ボランティア申込方法などの項目である。当センターの役割については、中井センター長が、①宮城県内の被災地小中学校児童生徒の学力定着と向上、②宮城県内の被災地小中学校の現職教員の支援、③ボランティア学生を中心とした若い方々の人材育成の3点について説明している。また、学習支援ボランティア活動例として、丸森町教育委員会との連携のもと丸森小学校で実施された本学の学生と奈良教育大学との学生による学習支援の様子を動画で紹介し、最後に教育復興支援ボランティア協力員からの呼びかけで締めくくっている。

センター紹介DVDは、センターホームページに掲載するとともに、平成25年度新入生全員に配布し、センターの活動内容の理解とボランティアへの参加を促す資料とする。





踏み出そう！子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から2年を経て～

外部資金等の獲得

大学が被災地仙台にあり教員養成教育に責任を負う大学として、東日本大震災により甚大な被害をこうむった被災地域への中・長期的な教育的支援を重点的に取り組むため、各種外部資金獲得の申請を行った。

平成23年度に続き、文部科学省の競争的資金「平成24年度大学改革推進等補助金（大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業）」、一般社団法人国立大学協会「平成24年度震災復興・日本再生支援事業」の申請が認められ、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が実施する「被災地の教育復興支援事業『心に笑顔』プロジェクト」の協力（事業費の支援）が得られた。

1 平成24年度大学改革推進等補助金

大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業

補助金額：64,394千円

事業の目的・必要性

1) 全体

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、宮城県は生活全般にわたり極めて甚大な被害をこうむり、被災地では未だ避難生活も続いている状況である。しかし、震災からの本格的な復興に向けて自治体を中心に様々な活動が動き出している中、被災地仙台にあり教員養成教育に責任を負う大学として、被災地への中・長期的な教育的支援を重点的に取り組むため、その中核的な学内組織「宮城教育大学教育復興支援センター」を立ち上げ、宮城県及び仙台市教育委員会との連携のもと、宮城県の教育の復興、発展を目指すとともに地域に密着した現職教員支援及び教員養成実践教育を行うものである。

被災地の学校では、授業再開によって明らかになった事実関係が明確化しており、学力低下・学力格差が懸念されている。

- ①教室復旧過程における児童・生徒の学習意欲・態度、集中力、学習達成度における課題の明確化
- ②避難所生活や仮設住宅生活等の家庭環境の変化が与える子どもへの影響
- ③転校を余儀なくされ、離ればなれになった児童・生徒の心的ストレス
- ④家族を失った児童・生徒の癒されない気持ちの潜在化

しかしながら、これら困難な諸課題に向き合っている教職員は疲労が蓄積しており、日々進行する被災の現状認識に伴う心的ストレスの増加、問題をもった児童・生徒に対する心のケアを含む教

育の方法に関する知識不足などから、適切な教育環境が確保されておらず、教育復興への大きな障壁となっている上、これらは短期間で解決できる課題ではないものである。本学が被災地域の一日も早い復興のためにできることを考えたとき、中・長期的な教育的支援という視点に基づいた本事業を実施することにより、宮城県の教育復興を図る取組の一つとして寄与するものである。さらに、教員を目指す学生が被災地域に赴き、困難な生活に立ち向かう児童・生徒や教職員と触れ合いながら勉学を教えたり教育活動に携わることは、今後の教員生活に必須となる人間力や教育実践力の向上のための貴重な財産となり得るものである。

2) 本年度

専任の特任教員を配置して被災地域における教育問題の実態把握と分析を行い、支援方法や実施体制の在り方についての研究を開始する。また、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会と連携しながら被災地の学校のニーズの把握に努め、要請のあった被災地域の各学校に本学学生や連携している他大学学生を派遣し、児童・生徒の個別学習指導や教員補助にあたる支援活動を昨年度に引き続き実施する。さらに、震災復興や防災教育に関わるセミナー、心のケアに関する相談や講習会、実験工作教室等のイベント的实践授業を実施し、被災地の学校現場への支援を充実させる。

2 一般社団法人国立大学協会

平成24年度震災復興・日本再生支援事業

補助金額:1,000千円

補助事業の趣旨・目的（被災自治体からの要望内容を含む）

被災地の学校では、仮設住宅生活や転校を余儀なくされる等、家庭・教育環境の大きな変化や、家族や友だちを失った癒されない心的ストレス等によって起因される、児童・生徒の中・長期的な学習意欲の低下・学力格差が懸念されている。

また、被災した児童・生徒に対応する側の教員も自らが被災者であるため疲労や心的ストレスが蓄積している上、被災した児童・生徒への心のケアや教育方法については、知識・経験不足も影響し、適切な教育環境が確保されておらず、教育復興への大きな障壁となっている。

このため本学では、甚大な被害をこうむった宮城県の教育の復興に向け、平成23年6月28日に「宮城教育大学教育復興支援センター」を設置し、宮城県教育委員会及び仙台市教育委員会との連携のもと、県内の国公私立大学及び国立教員養成系大学・学部と連携しながら、県内の児童・生徒の確かな学力の定着・向上及び現職教員の支援を中・長期的視点に立って実施するものである。

平成23年度においては、学力低下・学力格差に対応するため、被災地区の学校現場や教育委員会から支援要請のあった各学校へ学生を派遣して、長期休業期間や土日を活用した学習支援や補習授業を行う、「宮城教育大学教育復興支援塾事業」を実施した。

平成24年度は、学生派遣が集中する長期休業期間の調整にあたって、被災地の学校や教育委員会、

連携している他大学との緊密な連絡調整を図る。さらに、本事業の支援プログラムについての広報を積極的に行い、これまで本事業を活用していない学校の参加を促す。また、ボランティア活動に際しては、自己健康管理や、被災地の児童・生徒の気持ちに配慮した行動をすることが重要となるので、より質の高いボランティア活動ができるよう学生派遣前における研修を実施し工夫・改善を図った。

3 被災地の教育復興支援事業「心に笑顔」プロジェクト

公益社団法人日本ユネスコ協会連盟が実施する「被災地の教育復興支援事業『心に笑顔』プロジェクト」の協力（事業費の支援）先の一つとして、本学が行う教育復興支援事業が選ばれ、活動資金として助成金が寄附された。

寄附金額：7,960千円

事業の趣旨・目的

「心に笑顔」プロジェクトとは、UNESCOがドイツの化学会社BASFの寄附を受けて実施する事業で、被災地の教育復興に協力するものである。

BASFの支援によって実現する「心に笑顔」プロジェクトは、被災地の教育復興という課題に対し、自治体の教育復興計画に沿い、ストレスの多い生活の中で子どもたちや市民が笑顔を取り戻せる機会を提供し、震災体験の共有化により、持続可能な未来に向けた防災教育を推進していくことを目的とするものである。

事業は次の8つの活動で構成されている。

①学習支援活動、②遊具・スポーツ用具支援活動、③安全な遊び場支援活動、④心のケアを考慮した実験・工作教室支援活動、⑤心のケアを考慮した市民向け文化活動（コンサートや講演などの開催）支援、⑥子どもキャンプ、⑦学校の震災経験の共有化、⑧市民の震災体験の共有化

本学には、①学習支援活動の一つとして、宮城県内の被災地の子どもたちを対象に、大学生による学習支援ボランティア活動を通じて、長期休業中の学習支援を行うことを目的に助成された。

本寄附金の具体的な使途は、学生ボランティアの移動費用（バス借上げ代など）、活動先での食事代、ボランティア学生生活活動支援金（500円～1,500円／1日当たり）等に活用されたものであり、2年目を迎えた本学教育復興支援センターにおける学生ボランティア活動を大きく支えるものとなった。





踏み出そう！子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から2年を経て～

VI

資料

1 平成24年度 教育復興支援センター活動（事業）実績一覧（3月末日現在）

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
1	4月～ 継続（年間）	仙台市立中野小学校	教員補助	26		②教員補助事業
2	4月～ 継続（年間）	仙台市立荒浜小学校	教員補助 ※仮設住宅での学習支援を含む	7		②教員補助事業
3	7月～ 継続（年間）	登米市・南三陸町・気仙沼市内の仮設住宅	仮設住宅での学習支援※ NPO 法人 HSF 「人間の安全保障」フォーラムの実施事業への協力	31		①教育復興支援塾事業
4	11月～ 継続（年間）	仙台市立七郷中学校	教員補助	1		②教員補助事業
5	11月～ 継続（年間）	仙台市立六郷中学校	教員補助	1		②教員補助事業
6	1月～ 継続（年間）	仙南地区（岩沼・名取・亶理）	教員補助※教材開発等を含む	1		②教員補助事業
7	4月～5月	宮城教育大学	学校支援プログラム（学校教育講座）気仙沼市内14校（193名）分のアンケートデータの集計・入力支援	17	31	②教員補助事業
8	5月12日	宮城教育大学	東日本大震災一教育復興支援と地域の未来づくりフォーラム	主催	約100	③教員研修事業
9	5月12日	宮城教育大学	アジア太平洋ユネスコスクール「連帯と防災」フォーラム	共催	約100	③教員研修事業
10	5/12～13 5/26～27	宮城県 気仙沼向洋高校（仮設校舎）	図書館の書籍整理	9	10	②教員補助事業
11	5月26日	宮城県立石巻支援学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	10	10	②教員補助事業
12	6月6日	大和町立鶴巣小学校	4年生「総合的な学習の時間」における体験学習での指導支援（齊藤教授＋学生）	20	20	④イベント事業
13	6月16日	仙台市立荒浜小学校	運動会の準備・運営補助、児童生徒への活動補助	25	25	②教員補助事業
14	6月16日	岩沼市陸上競技場	岩沼市中総体（陸上競技）の実施・運営の補助	6	6	②教員補助事業
15	6月19日	仙台市立 折立小学校（仮設校舎）	特別授業「エジソンと電灯の発明のお話」（内山准教授）	1	1	④イベント事業
16	6/19・21	仙台市立六郷中学校	放課後の学習会の補助	6	8	②教員補助事業
17	7月7日	仙台市情報・産業プラザセミナールーム	公開研究会「子どもの成長と適応支援—震災後の心の支援を見据えながら—」	協力	143	⑤心のケア事業
18	7/23・26	岩沼市立岩沼南小学校	自学自習支援	1	2	①教育復興支援塾事業
19	7/23・26	大和町立鶴巣小学校	自学自習支援	1	2	①教育復興支援塾事業
20	7/23 7/25～27	塩竈市立 浦戸中学校・ 浦戸第二小学校	自学自習支援	7	15	①教育復興支援塾事業
21	7/23～27	石巻市立中里小学校	自学自習支援	1	5	①教育復興支援塾事業

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
22	7/23～8/7	仙台市立七郷中学校	自学自習支援(5教科・3学年対象)	12	44	①教育復興支援塾事業
23	7/24～8/3	塩竈市内6小学校	自学自習支援	9	27	①教育復興支援塾事業
24	7/25～27	柴田町立西住小学校	自学自習支援	1	3	①教育復興支援塾事業
25	7/26～27	南三陸町立 志津川小学校・戸倉小学校	自学自習支援	3	6	①教育復興支援塾事業
26	7/30～8/6	仙台市立六郷中学校	自学自習支援(5教科・3学年対象)	12	25	①教育復興支援塾事業
27	7/30～8/8	亶理町立逢隈中学校・荒浜中学校	自学自習支援(国・数・英)	8	21	①教育復興支援塾事業
28	8/1～2	志津川自然の家	みやぎ高校生ボランティアリーダー養成研修会の実施補助	6	12	④イベント事業
29	8/1～2 8/6	女川町立女川第二小学校	自学自習支援	10	20	①教育復興支援塾事業
30	8/1～3	南三陸町立入谷小学校	自学自習支援・プール監視	3	9	①教育復興支援塾事業
31	8/1～7	大和町立大和中学校	自学自習支援(数・英)	6	18	①教育復興支援塾事業
32	8/1～7	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数・英)	4	13	①教育復興支援塾事業
33	8月3日	女川町総合運動場	仙台市立桜丘中学校、桜丘小学校、川平小学校と連携した女川町民を対象とした合唱・交流演奏等のイベント	5	5	④イベント事業
34	8/6～10	大崎市立 古川第一小学校・ 古川東中学校・古川南中学校	自学自習支援(小5・6年生及び中1～3年生対象)	17	85	①教育復興支援塾事業
35	8/6 8/11～12	東北自治総合研修センター	高度な学級・学校経営力養成のための短期集中講座～震災復興からマネジメントを再考する～	共催	63	③教員研修事業
36	8/6～9	石巻専修大学	石巻好文館高校の生徒を対象とした自学自習支援	5	10	①教育復興支援塾事業
37	8/6～10	気仙沼市内8中学校	自学自習支援(小3～6年生及び中1～3年生対象)	18	84	①教育復興支援塾事業
38	8/6～10	登米市南方公民館	南方中学校の生徒を対象とした自学自習支援(5教科)	12	56	①教育復興支援塾事業
39	8/6～10	丸森町立丸森中学校	自学自習支援(5教科)	9	43	①教育復興支援塾事業
40	8/6～10 8/20～24	色麻町立色麻中学校	自学自習支援(国・数・英)	4	20	①教育復興支援塾事業
41	8/7～10	南三陸町立 志津川中学校・戸倉中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	15	60	②教員補助事業
42	8/8～10	角田市内3中学校	自学自習支援(小3～中3年生対象)	36	106	①教育復興支援塾事業
43	8/9 8/22～24	美里町北浦地区公民館 他	自学自習支援	2	5	①教育復興支援塾事業
44	8/11～12	陸前高田市米崎地区コミュニティセンター	体験教室「化石のレプリカをつくろう!」の実施・運営補助 ※国立科学博物館主催事業への協力	1	2	④イベント事業
45	8/16～18	蔵王自然の家	「子どもキャンプ」の実施補助 ※ユネスコ協会主催事業への協力	23	69	④イベント事業
46	8/16～20	栗原市立築館中学校	「学府くりはら塾」での講師	20	73	①教育復興支援塾事業
47	8/19～20	名取市立 本郷幼稚園・ 本学附属幼稚園	大阪市立幼稚園PTA連絡協議会・幼稚園長会による被災幼稚園・保育所訪問	協力	6	その他
48	8/20～24	南三陸町立 志津川中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	15	75	②教員補助事業

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
49	8/20～24	大郷町立 大郷小学校・大郷中学校	サマースクールでの講師と自 学自習支援	18	58	①教育復興支援塾事業
50	8/20～24	名取市立閑上中学校	自学自習支援	16	61	①教育復興支援塾事業
51	8/21～22	柴田町立船迫小学校	自学自習支援	1	2	①教育復興支援塾事業
52	8/21～23	栗原市金成庁舎	小学生版「学府くりはら塾」 での講師	7	43	①教育復興支援塾事業
53	8/21～23	宮城県 黒川高校	高大連携学力向上プロジェク トでの学習指導講師(国・数・英)	4	4	①教育復興支援塾事業
54	8/22～24	岩沼市中央公民館	自学自習支援(仮設住宅に入 居している児童生徒対象)	12	22	①教育復興支援塾事業
55	8月25日	遠刈田温泉ゆと森倶楽部	日本育療学会第16回学術集 会研究集会への活動ポスター 出展			その他
56	9/4～6	宮城県 気仙沼向洋高校(仮設校舎)	図書館の書籍整理	3	8	②教員補助事業
57	9月9日	角田市スペースタワーコスモ ハウス	角田市「はやぶさまつり」で のブース出展(内山准教授十 学生)※角田市教委との連携 事業への協力	2	2	④イベント事業
58	9月16日	石巻向陽地区コミュニティ・ センター	仮設住宅に入居している住民 を対象にした佐藤雅子名誉教 授・雅座・沖縄県安富祖小中 学生による民俗舞踊公演	主催	約120	④イベント事業
59	9/19～21	大熊町立幼小中学校 (会津若松市内)	大熊町立幼小中学校の児童生 徒を対象とした教員補助活動 (根本アリソン特任准教授十 学生)	17	51	②教員補助事業
60	9月24日	気仙沼市立小泉小学校	ピアノ演奏に親しみ、感謝の 気持ちを養う「感謝のピアノ コンサート」の実施支援(原 田准教授十学生)	16	16	④イベント事業
61	9/24～25	東松島市立小野小学校	図書館の書籍整理	9	14	②教員補助事業
62	9/24～28	丸森町立 丸森小学校・丸森中学校 他	教員補助	12	59	②教員補助事業
63	9月26日	利府町立しらかし台中学校	学校支援プログラム(技術教 育講座)利府中学校生徒・保 護者を対象とした「LEDラン タン工作教室」	8	8	④イベント事業
64	9月26日	石巻市立大川小学校 他	第1回被災地視察研修	主催	19	人材育成
65	9月28日	南三陸町立戸倉小学校 他	オーストラリアメルボルン大 学院生及び本学学生の南三陸 町視察・現状解説	協力	17	その他
66	10月6日	石巻市立大川小学校 他	第2回被災地視察研修	主催	17	人材育成
67	10月13日	宮城県立石巻支援学校	学校祭の準備・運営補助、児 童生徒への活動補助	6	6	②教員補助事業
68	10月17日	仙台市立荒浜小学校 他	韓国大邱教育大学総長及び孫 先生の仙台市立荒浜小学校視 察・現状解説	協力	7	その他
69	10月20日	岩沼市立岩沼南小学校	岩沼市「理科大好きフェス ティバル」の出展ブースの運 営補助 ※岩沼市教委との連携事業へ の協力	5	5	④イベント事業
70	10月20日	仙台市立旭丘小学校・旭ヶ丘 市民センター	「融合フォーラム in 東北 2012」でのボランティア活動 報告・ポスター出展	協力	7	その他

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
71	10/20～21	宮城教育大学	ヤングアメリカンズワーク ショップへの参加 ※創造的復興教育協会事業への協力	協力	26	④イベント事業
72	10/20～21	宮城教育大学	学生主催ボランティア報告 会・意見交換会「私たちにと つての震災復興」	協力	27	人材育成
73	10/20～21	宮城教育大学	大学祭での活動ポスター出展			その他
74	11月2日	宮城教育大学	2012年JICA集団研修での「震 災と教育復興」の講義・解説	協力	10	その他
75	11/3～4	宮城教育大学	全国生涯学習ネットワー クフォーラム2012	主催	約480	③教員研修事業
76	11/3～4	宮城教育大学	ボランティア報告会・意見交 換会	主催	約90	人材育成
77	11月8日	女川町地域医療センター 他	第3回被災地視察研修	主催	20	人材育成
78	11/16～17	東松島市立鳴瀬第一中学校	図書館の書籍整理	5	5	②教員補助事業
79	11月30日	仙台市立七郷中学校体育館	荒浜小、七郷中の児童生徒、 保護者を対象としたコンサ ートの実施 ※中部フィルハーモニー交響 楽団事業への協力	共催	約120	④イベント事業
80	12月9日	石巻市立大川小学校 他	第4回被災地視察研修	主催	19	人材育成
81	12月13日	仙台市情報・産業プラザセミ ナールーム	南東北3大学連携「災害復興 学」市民講座	主催	47	③教員研修事業
82	12/14～15	東北学院大学	復興大学災害ボランティアス テーション主催シンポジウム への活動ポスター出展			その他
83	12月16日	仙台市立荒浜小学校 他	第5回被災地視察研修	主催	13	人材育成
84	12月19日	宮城教育大学	学生主催ボランティア報告会 「宮教生が考える震災復興～ 私たちにできること～」	協力	40	人材育成
85	12/24～26	栗原市金成庁舎	「冬の学府くりはら塾」での講 師	9	17	①教育復興支援塾事業
86	12/25～26	塩竈市内6小学校	自学自習支援	4	7	①教育復興支援塾事業
87	12/25～27	気仙沼市内8中学校	自学自習支援(小3～6年生 及び中1～3年生対象)	18	53	①教育復興支援塾事業
88	12/25～27	大郷町立大郷小学校	ウィンタースクールでの講師	10	25	①教育復興支援塾事業
89	12/25～27	大和町立大和中学校	自学自習支援(数・英)	5	13	①教育復興支援塾事業
90	12/25～27	大和町立宮床中学校	自学自習支援(数・英)	6	10	①教育復興支援塾事業
91	12/25～28	大崎市立 古川東中学校・三本木中学校	自学自習支援	6	16	①教育復興支援塾事業
92	12/25～28	登米市南方公民館	南方中学校の生徒を対象とし た自学自習支援(5教科)	6	18	①教育復興支援塾事業
93	12/27～28	栗原市金成庁舎	小学生版「冬の学府くりはら 塾」での講師	11	20	①教育復興支援塾事業
94	1/4～5	柴田町榎木生涯学習センター	柴田町内の中学3年生を対象 とした自学自習支援	4	8	①教育復興支援塾事業
95	1月16日	宮城教育大学	第1回講習会(iPad活用)	主催	6	人材育成
96	1月17日	仙台国際センター	「産学官連携フェア2013 winter みやぎ」への活動ポ スター出展			その他
97	1月18日	宮城教育大学	第2回講習会(HP作成・活用)	主催	8	人材育成
98	1月23日	宮城教育大学	第3回講習会(HP作成・活用)	主催	6	人材育成
99	1月25日	宮城教育大学	第4回講習会(iPad活用)	主催	6	人材育成

	日程	実施場所	実施内容	派遣 実人数	延人数 (参加人数)	備考
100	1月26日	宮城野区文化センター	宮城県社会福祉協議会主催「災害ボランティアシンポジウム」への活動ポスター出展			その他
101	2月1日	宮城教育大学	第5回講習会 (iPad 活用)	主催	9	人材育成
102	2/1～22 (毎週金曜日)	仙台市立館小学校図書室	図書室の蔵書のデータベース化作業	2	6	②教員補助事業
103	2月2日	福島県文化センター	南東北三大学連携シンポジウム「安全と信頼で支えられる地域社会の構築を目指して」での活動報告			その他
104	2月2日	仙台市天文台	「天文台まつり2013」への活動ポスター出展			その他
105	2月6日	宮城教育大学	第6回講習会 (iPad 活用)	主催	9	人材育成
106	2月11日	仙台ガーデンパレス	第2回 学校・地域連携研究シンポジウム「夢と志をもつ子どもたちを育むために～地域協働による防災教育をめざして～」	共催	約130	⑥キャリア教育事業
107	2月12日	宮城教育大学	キャリア教育に関する研修会 国立教育政策研究所 藤田先生による講演	主催	20	⑥キャリア教育事業
108	2/12～15	大熊町立幼稚園・小学校 (会津若松市内)	大熊町立幼稚園・小学校の園児児童を対象とした教員補助活動 (根本アリソン特任准教授+学生)	23	69	②教員補助事業
109	2月15日	宮城教育大学	第7回講習会 (ボランティアキット活用)	主催	21	人材育成
110	2月18日	宮城教育大学	第1回復興カフェ「気仙沼市仮設商店街における経営状況と本設の意向」	主催	21	研究開発事業
111	2月18日	宮城教育大学	持続発展教育・ESD セミナー 国立教育政策研究所 五島先生による基調報告「防災教育・持続発展教育の進め方」	後援	約50	③教員研修事業
112	2月20日	宮城教育大学	第8回講習会 (iPad 活用)	主催	2	人材育成
113	2月22日	宮城教育大学	第9回講習会 (ボランティアキット活用)	主催	3	人材育成
114	3/4～15	松島町立松島第一小学校	教員補助	14	69	②教員補助事業
115	3月8日	宮城教育大学	上越教育大学と本学の特別支援教育合同ゼミナールでの「教育復興支援について」の講義・解説	協力	9	その他
116	3月11日	文部科学省	「東日本大震災復興支援イベント～教育・研究機関としてできること、そしてこれから～」への活動ポスター出展			その他
117	3月11日	宮城教育大学	第2回復興カフェ「教育復興支援センターの役割と課題」	主催	37	研究開発事業
118	3月16日	宮城教育大学	ボランティア総会	主催	28	人材育成
119	3/25～29	南三陸町立志津川中学校	自学自習支援、部活動指導補助、教育環境整備	13	65	②教員補助事業
120	3/26～29	気仙沼市内8中学校	自学自習支援 (小3～6年生及び中1～3年生対象)	13	52	①教育復興支援塾事業
121	3/26～29	宮城県黒川高校	高大連携学力向上プロジェクトでの学習指導講師 (国・数・英)	3	4	①教育復興支援塾事業

2 教育復興支援センターだより

アルバム： 仙台市立荒浜小学校運動会ボランティア

2012. 6. 16

教育復興支援センターだより 1号

'12
6. 20



オリエンテーション

- ★ 学校教育における運動会の位置づけについて
- ★ 運動会ボランティアの内容について
(荒浜小学校における保護者・地域住民のための駐車場の必要性 等)



さあ、作業の開始です

教頭先生の説明をしっかりと聞いて・・・



テントの中に、地域の皆さんが座るシートを敷いて・・・



駐車場案内も大切な仕事です。
荒浜小学校には、学区と言われる地域がありません。
この日の運動会を楽しみに、それぞれの避難所から地域の
人たちが車で集まって来ます。
そう、心の学区を求めて・・・。



順位を間違わないように・・・



校長先生の指示をしっかりと聞いて・・・。



地域の皆さんと一緒に・・・



「未就学の子どもたち、みんな集まって！！ 玉入れだよ！！」



25名のボランティア
来賓や地域の皆さんの前で慰労の言葉を・・・



濡れたテントをしっかりと乾かして・・・



ささやかな反省会
ここは、Kスタ近くにある教育復興支援センターの仙台中央事務所です。ボランティア活動のために学生の皆さんも活用できる所です

気仙沼向洋高校図書整理等のボランティア活動

- 1 日時 5月12日（土）～13日（日）
5月26日（土）～27日（日）
- 2 場所 気仙沼向洋高校図書室（気仙沼高校第2運動場内の仮設校舎）
- 3 参加者 のべ 10人
- 4 内容 全国からの支援や交付金による購入書籍整理



学校司書の佐藤恵美先生より図書の補強の仕方について指導を受ける。

- ※気仙沼向洋高校・狩野教頭先生の挨拶
- ・第2期は、向洋高校生と一緒に作業を行う。
 - ・三陸新報の取材あり（5月26日午前）。
 - ・図書の整理は全体の半分以下、今後とも支援をお願いしたい。



教育復興支援センターだより 2号

'12
6. 20

石巻支援学校教員補助（運動会の支援）

1. 日時： 5月26日（土） 8:30～12:30
2. 場所： 石巻支援学校校庭
3. 出席者： ボランティア学生10名・他大学（福祉大）1名



晴天に恵まれた運動会（開会式）。
水分補給が大切になってくる。



教頭先生、担当の先生から業務内容の説明を受ける。
秋の学習発表会（学校祭）のボランティア支援要請があり、
一部の学生は応諾したとのこと。

六郷中のボランティア活動（学習支援）

- 1 日時 6月19日（火）、21日（木） 午後4時～5時
- 2 場所 仙台市立六郷中学校3年生教室
- 3 参加者 19日 2名（1年1名、4年1名）・ 21日 6名（1年5名、4年1名）
- 4 内容 学習支援活動・・・3年生の中間試験に向けた放課後学習の支援を行いました。
教科毎の指導教官のもと、英語、数学、理科の学習補助を行いました。



3年生の各教室に教科毎に希望生徒が集まり、担当の先生から指示を受けた後、生徒の皆さんは問題集を準備し、各自自学自習に入りました。ボランティア学生の皆さんは、はじめは少し緊張していましたが、中学生から解き方などの質問が続き、丁寧にそして的確に答えていました。さすが、宮教大生ですね。特に、1年生の皆さんにとっては今回が初めての学習支援活動でしたが、落ち着いて自信を持って支援していました。素晴らしい姿でした。中学生も笑顔で、気さくに質問していました。充実できた活動内容でした。

教育復興支援センターだより 3号

'12
6.25

文部科学省 上月 正博大臣官房審議官との懇談

- 1. 日時 : 6月25日（月） 12:00～
- 2. 場所 : 阿部芳吉特任教授室
- 3. 出席者 : 上月審議官、阿部芳吉特任教授、南三陸ボランティアSチーム11人



※懇談開始前、教育復興支援センター特任教授たちとの面談



※上月審議官、阿部芳吉先生、学生たちとの懇談の様子

教育復興支援センター “1周年” ブランチ開所式

平成 24 年 6 月 28 日

教育復興支援センターだより 4号

'12
7. 2

★教育復興支援センター



見上 学長・開会の挨拶

★仙台中央事務所



他の事務所の様子に聞き入って

★気仙沼事務所



来賓挨拶・気仙沼市教育長

★仙南事務所



テレビ会議に参加している皆様

式 次 第

司会 研究・連携推進課副課長

1. 開会の挨拶
※宮城教育大学 学長 見上一幸
2. 来賓挨拶
※気仙沼市教育長 白幡勝美 様
※岩沼市教育長 影山一郎 様
3. 来賓紹介 & 各ブランチの紹介
※仙台中央事務所 (吉田利弘 特任教授)
※気仙沼事務所 (門脇啓一 特任教授)
※仙南事務所 (伊藤芳郎 特任教授)

※宮城教育大学出席者紹介 (司会)
4. 今後の予定紹介
※教育復興支援センター長 中井 滋
5. 閉会の挨拶
※特任教授 (前センター長) 阿部芳吉



平成 24 年 6 月 28 日 (水) 13:00～ 教育復興支援センターブランチ開所式を開催しました。

開所式は、本学と各ブランチ (仙台中央事務所・気仙沼事務所・仙南事務所) をテレビ会議システムで中継、42 名が参加しました。

各ブランチは、子どもの学習支援のために全国から訪れる学生ボランティアなどが、打ち合わせや地元自治体との連絡調整に活用します。

事務所紹介

★仙台中央事務所
仙台市宮城野区宮城野 1 丁目・宿泊設備 (20 名分あり)

★気仙沼事務所
気仙沼市八日町 1 丁目・常駐職員 2 名

★仙南事務所
岩沼市中央 1 丁目・セミナー室 (約 20 名)

利用に関しては、
教育復興支援センターへお問い合わせください。

(内線 3640 or 3926)
fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp

夏期休業中 学習支援ボランティア＝前期編＝

【学習支援ボランティア状況】

☆ 塩竈市内6小学校	7月23日～8月3日	宮城教育大学生
☆ 仙台市立七郷中学校	7月23日～8月7日	宮城教育大学生 愛知教育大学生 東北学院大学生
☆ 柴田町立西住小学校	7月25日～27日	宮城教育大学生
☆ 南三陸町立志津川・戸倉小	7月25日～27日	愛知教育大学生
☆ 仙台市立六郷中学校	7月30日～8月6日	宮城教育大学生
☆ 亘理町立逢隈中学校	7月30日～8月8日	宮城教育大学生
☆ 南三陸町立入谷小学校	8月1日～3日	宮城教育大学生 東北大学生
☆ 女川町立女川二小学校	8月1日～6日	宮城教育大学生 群馬大学生
☆ 大和町立大和中学校	8月1日～7日	宮城教育大学生
☆ 大和町立宮床中学校	8月1日～7日	宮城教育大学生 東北学院大学生
☆ 気仙沼市内小中学生	8月6日～8日	宮城教育大学生 早稲田大学生
☆ 大崎市古川地区内小中学生	8月6日～10日	愛知教育大学生
☆ 登米市立南方中学校	8月6日～10日	宮城教育大学生 京都教育大学生
☆ 丸森町立丸森中学校	8月6日～10日	宮城教育大学生 奈良教育大学生 福岡教育大学生 北海道教育大学生
☆ 石巻好文館高等学校	8月6日～9日	宮城教育大学生 東北大学生
☆ 南三陸町立志津川中学校	8月7日～10日	宮城教育大学生 東京学芸大学生
☆ 気仙沼向洋高等学校	8月7日～10日	宮城教育大学生
☆ 美里町内小学生	8月7日～9日	宮城教育大学生 東北学院大学生
☆ 角田市内小中学生	8月8日～10日	宮城教育大学生 上越教育大学生 大阪教育大学生

教育復興支援センターだより 5号

12
9.18



じっくり基礎を鍛えて
～逢隈中学校～



奈良教大、北海道教大、福岡教大と本学生との交換会
～あぶくま荘にて～



京都教育大学生の被災地訪問
～関上中学校の被災生徒碑文の前にて～

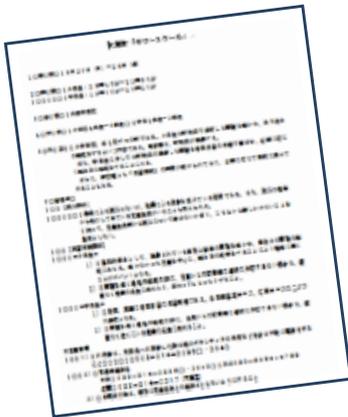


おそろいのTシャツで
～志津川小にて～

夏期休業中 学習支援ボランティア＝後期編＝

【学習支援ボランティア状況】

☆ 大郷町立大郷小学校	8月20日～24日	宮城教育大学生
☆ 柴田町立船迫小学校	8月21日～22日	宮城教育大学生
☆ 栗原市小学生	8月21日～23日	宮城教育大学生
☆ 岩沼市立玉浦小学校	8月22日～24日	宮城教育大学生 鹿児島大学生
☆ 美里町小学生	8月22日～24日	宮城教育大学生 東北学院大学生
☆ 栗原市中学生	8月16日～20日	宮城教育大学生
☆ 南三陸町立志津川中学校	8月20日～24日	愛知教育大学生
☆ 大郷町立大郷中学校	8月20日～24日	宮城教育大学生
☆ 名取市立関上中学校	8月20日～24日	宮城教育大学生 早稲田大学生
☆ 宮城県黒川高等学校	8月21日～23日	宮城教育大学生 東北学院大学生



充実したボランティア活動にするために

〈大郷町立大郷小中学校ボランティア事前指導の資料から〉

ボランティアに行く前に、各学校等の被災状況を踏まえ、子どもたちへの指導に配慮することなどが記されています。

大郷町は、津波の被害はなかったものの、被災地からの転入生がいることも考えられるため、接し方に留意することなどを呼びかけています。

その他、実施されるサマースクールの形態に触れ、学習支援ボランティアの在り方についても記されています。

教育復興支援センターだより
6号

12
9.18



関上中学校に向かう早稲田大学生への事前指導
～セミナーハウス～



ボランティアに向かう前に本学生と鹿児島大生との交換会
～岩沼事務所～



エガオでエイゴ
～大郷中学校～



共通の問題を解いた後の一斉指導
～大郷小学校～



亀井教育長さんも真剣に
～くりはら塾～

10月17日(水) 韓国大邱教育大学総長 仙台市立荒浜小学校視察



本学の協定校、韓国の大邱教育大学の総長(学長)と孫先生を、被災した荒浜小学校へご案内し、震災当時の様子や現在の状況などを説明しました。

教育復興支援センターだより 7号

10月20日(土)~21日(日) 大学祭にて活動紹介&意見交換会を実施



20日(土)

宮城教育大学生協学生委員主催、震災復興プロジェクト「私たちにとっての震災復興」において、門協啓一特任教授の基調講演がありました。



県内各地で行われた学生ボランティア活動の様子に見入る一般客。

'12
10.30



21日(日)

各ボランティアリーダーによる活動紹介や、どのようにしたら学習支援ボランティアへの参加学生を増やせるかなど活発な意見交換が行われ、情報共有の重要性を確認しました。

高校生や前年度の特任教授の参加もありました。

全国生涯学習ネットワークフォーラム2012 宮城分科会

11月3日(土)・4日(日)開催の表記フォーラム・宮城分科会「つながりを持った教育復興、復興教育と地域創造」にパネル展示、翌日の熟議に参加しました。



パネル展示



ハモニーさんチームの熟議



MUE(ミュウ)ちゃんチームの熟議



マナビーチームの熟議

教育復興支援センターだより
8号

'12
11.27

2012年 JICA 集団研修関連事業

※「震災と教育復興」の講義を担当

11月2日(金)に「震災と教育復興」と題した講義を、教育復興支援センターにて電子黒板を用いて行いました。



※第3回東日本大震災被災地視察研修を開催

11月8日(木)に女川町地域医療センター、石巻市立門脇小学校、仙台市立荒浜小学校を視察しました。



第4回・第5回東日本大震災被災地視察研修

12月9日(日)と12月16日(日)に、ボランティア協力員等を対象に「東日本大震災被災地視察研修」を実施。また、実施に先立ち、5日(水)・7日(金)に説明会を開催しました。



センターにて事前説明会



石巻市立大川小学校



南三陸町戸倉小学校の児童が一夜をあかした五十鈴神社前 & 記念碑



南三陸町防災センター

教育復興支援センターだより 9号

'13
1.7

宮教生が考える震災復興

～私たちにできること～

主催 学生教育復興プロジェクト

12月19日(水) 13:00～叔朋会館大集会室において、ボランティア報告会が開催されました。

中井滋センター長挨拶、阿部芳吉特任教授の講演、参加団体活動報告、パネル展示があり、参加者たちは

【様々なボランティア活動があること】

【なぜ、ボランティアが求められているのか】

【自分たちにできることはなにか】

等を考える機会となった。



参加団体活動報告

冬期休業中 学習支援ボランティア

【学習支援ボランティア状況】

☆ 栗原市内中学校	12月24日～26日	宮城教育大学生
☆ 塩竈市内6小学校	12月25日～26日	宮城教育大学生
☆ 気仙沼市内7中学校	12月25日～27日	宮城教育大学生 東北学院大生 早稲田大学生
☆ 大郷町立大郷小学校	12月25日～27日	宮城教育大学生
☆ 大和町立大和中学校	12月25日～27日	宮城教育大学生
☆ 大和町立宮床中学校	12月25日～27日	宮城教育大学生
☆ 大崎市立古川東中学校	12月26日～28日	宮城教育大学生 東北福祉大学生 東北学院大生
☆ 登米市立南方中学校	12月25日～28日	宮城教育大学生 北海道教育大学生 東北学院大学生
☆ 栗原市内小学校	12月27日～28日	宮城教育大学生
☆ 柴田町内中学校	1月4日～5日	宮城教育大学生 東北学院大学生



じっくり基礎を鍛えて
～くりはら塾～



2次関数のグラフはこうなっていますが・・・
～くりはら塾～



本日の学習支援の内容は次の通りです。
～古川東中学校での事前打ち合わせ～



その課題をやりましょう
～大和中学校にて～



早朝、フェリーで大島中など、各会場へ
～気仙沼市の宿泊所にて～



16の小学校からのたくさんの友達と
～くりはら塾小学生の部～



子どもたちに寄り添って
～塩竈市立第一小学校にて～

教育復興支援センターだより
10号

'13
1. 18

iPad 講習会を開催中

	月 日	内 容	参加人数
第1回	1月16日(水)	iPad 講習会	6名
第2回	1月18日(金)	HP 講習会	8名
第3回	1月23日(水)	HP 講習会	6名
第4回	1月25日(金)	iPad 講習会	6名
第5回	2月1日(金)	iPad 活用講習会	9名
第6回	2月6日(水)	iMovie 活用講習会	10名



今回は教職員のみです。
学内 Wi-Fi に接続中



学生たちにまざって職員も！
同じことを何度も聞いてもやさしく教えてくれます。

教育復興支援センターだより 11号

学校・地域連携シンポジウム



2月11日(月) 仙台ガーデンパレスにて
中井センター長による取組報告・講演

キャリア教育に関する研修会



国立教育政策研究所 総括研究官
藤田 晃之先生による基調講演・質疑応答・意見交換

13
2.

復興カフェ in Miyakyo

2月18日(月) 12:00~12:45に、
本学中会議室にて第1回を開催しました。

話題提供：「気仙沼市仮設商店街における
経営状況と本設の意向」
報告者： 庄子 元氏
(東北大学理学研究科博士課程院生)



3月11日(月)に第2回を開催予定!

3月8日（金）・15日（金） 奈良教育大学ボランティア学生被災地視察研修



女川町地域医療センターにて、津波の到達地点の高さに驚いています。



女川の3階建の建物が倒壊した場所にて

教育復興支援センターだより 12号

13
3. 22

3月8日（金）上越教育大学（土谷研）・本学（菅井研）合同ゼミナール



伊藤芳郎特任教授が標記学生に対して、「本センターの役割と活動内容」の講義を行いました。

文部科学省 東日本大震災復興支援イベント ～教育・研究機関としてできること、そしてこれから～

3月11日（月）文部科学省『情報ひろば』において、標記イベントに参加しパネル展示を行いました。



3月11日（月） 第2回 復興カフェ in Miyakyo

東日本大震災発生から2年目にあたる、3月11日（月）に本学中会議室にて第2回目を開催しました。

話題提供：「教育復興支援センターの役割と課題」

報告者：阿部 芳吉(特任教授)

今回の復興カフェは、TV会議システムにて気仙沼事務所へ配信しました。



発刊にあたって

東日本大震災から2年が経過しました。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々へ改めてお見舞い申し上げます。

さて、本センターの一年の歩み、記録集ともいべき「軌跡」を今年も発刊することになりました。顧みますと、主催行事の準備や学習支援ボランティア参加学生の確保に迫られた感は否めません。しかし、本学および連携協働する全国の教員養成系大学等の学生が、被災地の児童生徒と真摯に向き合い、その学習支援等を通して、子どもたちや教職員と交流するなかで、教師に求められる資質や能力に磨きをかけ、人間として成長したことは間違いありません。

被災地を訪れると復旧復興は未だ十分とはいえ、むしろ長時間を要するものと実感します。特に被災地の学校の校庭はほとんど仮設住宅、入居者の駐車場になっています。生活のためにはやむを得ないとは思いつつも、学校現場のご苦勞、工夫の様子が偲ばれます。

本学の使命は職業人としての教師の育成、人間力の育成にあります。そして、教師は次代を担う子どもたちの育成が本務です。恵まれた環境下での教育が望ましいに違いありませんが、逆境に耐え、それを克服することで得られるものが格別であることは明らかです。

ともあれ、望ましい環境で教育が行われるまでには、まだしばらく時間を要すことでしょう。それに呼応して、各教委や各学校からの学習支援の要請はなくなりそうにありません。

現在、管理棟に隣接して本センター棟が建設中です。教官室、コーディネータ室、資料室に加え、学生が自由に入りし、他のボランティアグループとの交流の拠点として活用できる場を設けたいと思っています。そこで、各グループのメンバーや活動内容の把握、相互の応援態勢および教材づくりとその共有を図ることにより、情報連携から行動連携へと学生の意識が高められ、教員に求められる資質や能力の向上も図られると期待しています。

この一年間の多くの方々にお世話になりました。特に、児童生徒の理解、学習指導力が十分とはいいがたい学生を受け入れ、指導して下さった学校、先生方に感謝申し上げます。そして、何よりも被災地の困難さを慮り、人生意気を感じて学習ボランティアに参加してくれた本学、他大学の学生諸君に感謝します。諸君の使命感、実践力こそが大学の宝です。

本「軌跡」は本学、本センターの歩みをまとめたものです。記憶に頼ることなく記録にまとめ、将来に伝えることは意義あることと存じます。ご参照願えれば幸いです。震災からの一刻も早い復興を祈念し、発刊にあたってのご挨拶いたします。

教育復興支援センター長
中井 滋

東日本大震災

踏み出そう! 子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡

～震災から2年を経て～

平成25年3月31日発行

編集・発行 / 国立大学法人
宮城教育大学 教育復興支援センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

電話 022-214-3640 090-6854-4789

E-mail fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp

制作・印刷 / 株式会社ホクトコーポレーション



ご支援いただきました皆様
協働いただきました皆様
ありがとうございました

地域とともに 子どもたちの笑顔のために
これからは 本当の復興です

東日本大震災

踏み出そう! 子どもたちの笑顔のために

あすへ向けての軌跡 ～震災から2年を経て～

発行



国立大学法人

宮城教育大学

教育復興支援センター

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

電話 022-214-3640 090-6854-4789

E-mail fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp



このパンフレットは「水なし印刷」
[VEGETABLE OIL INK]で
印刷しております。



環境にやさしい・植物性インキ
[VEGETABLE OIL INK]で
印刷しております。